昭和44年12月1日発行毎月1回1日発行

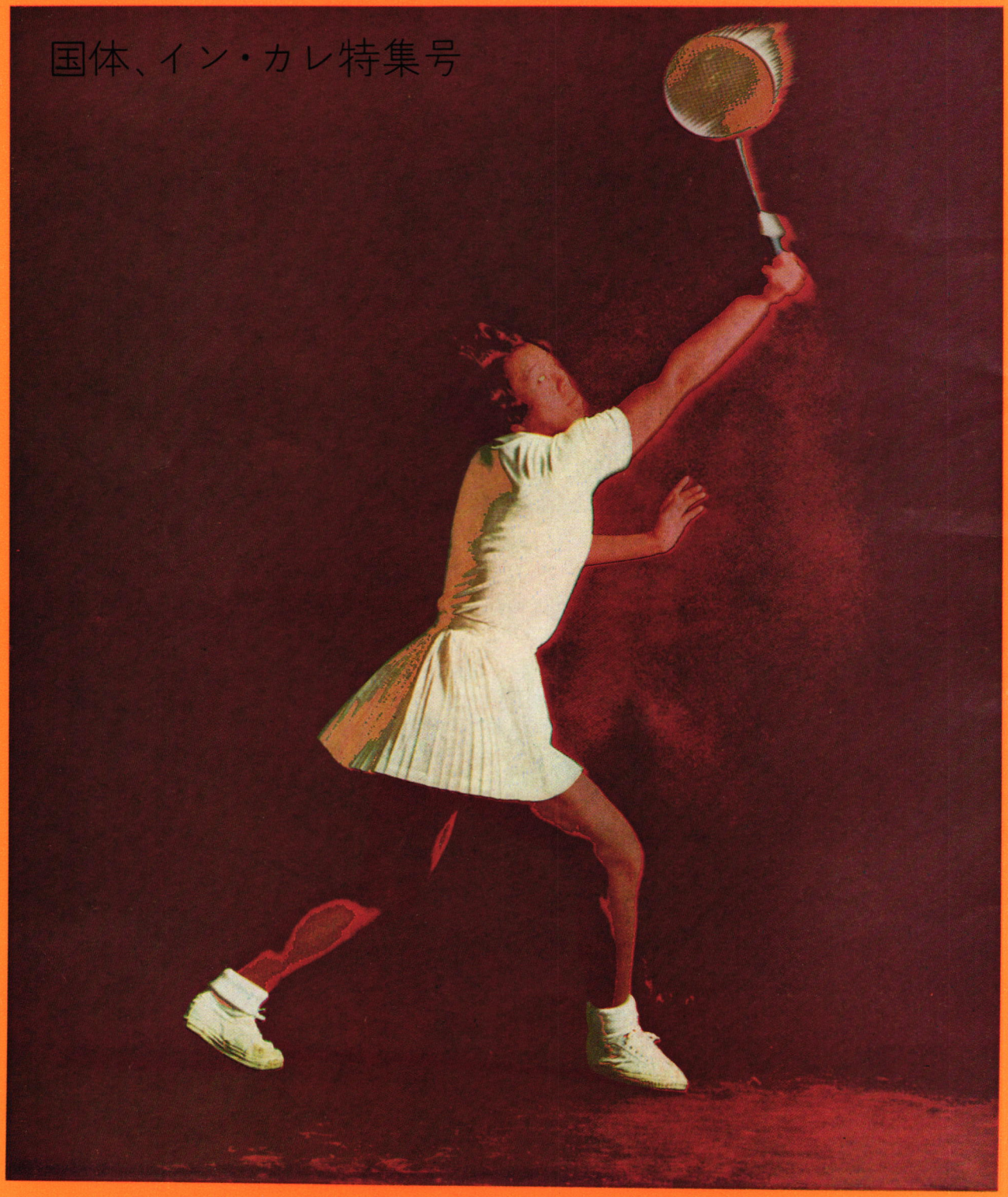
日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no. 4
1969
december

国体、イン・カレ特集号



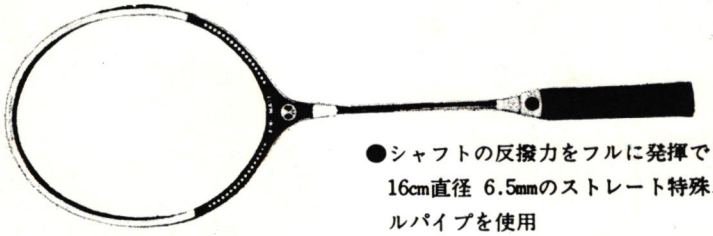
反撥力 抜群！

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

サンバタ
株式会社 諸江製作所 東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話(377) 4401(代表)

「バドミントン界」《第四号》

■競技会特集■

〈国体詳報〉▽総評…相場清一、高女評…小飼栄一……2
▽国体天覧のこと……森友徳兵衛、喜びのことば
▽ミニ・インタビュー、〈アピン
〈全日本学生選手権速報〉……6
▽総評……小島一平、優勝者のことば
▽団体、個人戦記録
〈全日本総合選手権予想〉……盛川　宏……8

■写真グラフ■国体から　撮影・山田直市……17

◇　◇　◇

■特別企画■

〈コーチをコーチする〉クラマーさんの話から……10
〈中学指導者講習会〉から……今井　先、前田耕作……12
▽選手養成を考える……遠井稔男

■連載■

〈理事長対談〉第三回……笹原正三氏……1
〈技術講座〉
▽スピードのトレーニング……遠井稔男……16
▽明暗分けた一打……毛利清志……15
▽ラケットの正し握り方……伊藤基記……14
〈私の場合〉三度目の韓国コーチへ……板垣隆房……23

■よみもの■

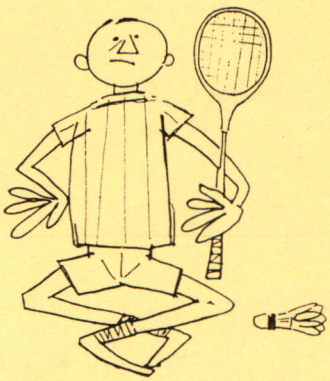
〈ヒーロー〉全日本学生優勝の本間順次……24
〈職場訪問〉東京警視庁……25
〈スポーツ・サロン〉
▽科学的にみたバドミントンの魅力・下……小林範夫……26
▽スポーツマンと食生活……吉広紀代子……27
〈北から南から〉小島選手にスポーツ賞……13

◇　◇　◇

海外の話題……竹市行男……28　　告知板……35
質問箱……21　　表紙……36
ルール100問・2……29　　編集部から……36
ランキング……11　　編集後記……36
〈RECORD〉国体全記録ほか……30

表紙／撮影・松井亮磨／デザイン・小浜正道
カット／おおば比呂司・秦　浩





素材の厳選　完全な接着

カワサキラケット

河崎ラケット工業株式会社

本　社　東京都台東区台東２－28－５

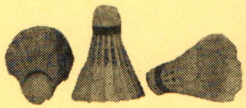
TEL（831）9161㈹～3・6657・1884・0453

水鳥　検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー







ファスト印シャトル
コック製造発売元

有限会社　ジャワ商会

山形市六日町７－28

電話 02362（2）3994

理事長対談…③

日本アマ・レスリング協会
強化委員長

笹原正三氏

選手強化の秘訣は

…最低の環境になれること…



川端　東京、メキシコと日本のレスリングは凄い快進撃ぶりですね。東京が金4、メキシコが金5、ミュンヘンでは6ですか。

笹原　とても、とても…（笑）私はいつも控え目で2個だといってるんですよ。

川端　秘けつはなんですか。強くなるための。たとえば八田さんは選手にライオンとにらめっこさせたり、真夏に蚊がブンブン飛んでくる体育館にマットを敷いて寝かせたり……。いささか非科学的――という外国人もいるんですが……。

笹原　たしかに外人には理解できないでしょう。だがやってることは科学的なんですよ。ライオンとにらめっこする。これが子供なら意味はわからない。なぜやるか？という意味をつかんだ者ならわかるはずなんですね。人間にわからぬ動物の目彼等は危険距離を知っている。従って神経をこれに集中して先に相手の動きを読む鍛練をする。要するに目の輝きを読みとって攻撃、防禦に出るんです。

川端　なるほど、どのスポーツでも、目の動きからスタートするという……。

笹原　マットに寝たりすることも、まず持てる力を100％出しきるためには選手を〝最低の環境〟に置いてそこからスタートさせる点で意味があるんです。

眠れないとロクな試合はできない。これをどこでも眠れるように鍛えるわけです。

川端　最近の選手はぜいたくで、やれこんなところじゃ眠れぬとかいいますが、レスリングは行き届いていますね。よくいうことをききますね。

笹原　ぜいたくをいわせるからいけない。私たちはこれを高校生の時から植えつけるわけです。なぜスポーツをやるのか、ということ、精神的なものを、この時代に植えつけるんです。

川端　高校生重点主義。

笹原　ええ、高校の時に、これとこれをやらねば、いくらやっても強くならんということ、いわば基礎をみっちり教え込むことが重要だと思うんです。

川端　金メダル量産で人気種目のわりに興行的価値が低いというか、海外遠征などでも資金面で悩みはありませんか？

笹原　そりゃ苦しいですよ。一年に四回合宿したりで強化費が一千万円必要なんですね。そして強い選手はカネがなくてもかならず海外遠征できるという体制を早く作りたいですね。だから全国的に各県別に組織を作って、たとえば一口十万円の人が十人集まって百万円とかいったように……。

川端　われわれのところは選手が自己負担、役員が協会負担となってるんですよ。

笹原　アベコベですね（笑）

川端　ローマでレスリングが惨敗した時、アタマをソリましたね（笑）あれも効果があるんですね。選手強化に……。

笹原　そうですよ。ライオンと同じでね。アタマが坊主になると、毛が伸びるまで鏡を見てつねに反省するでしょう。反省のための手段ですね。

川端　なるほど。選手を強くするためには〝最低の環境〟から上昇させることが大切なわけですか。それが〝金メダル〟につながるわけですね。

笹原　そうです。基本さえしっかりしてれば、同じ条件のもとで、なぜ一方が強くなり、片方が弱いか？　原因があるんですよ。体操ひとつやっても考えずに腕を動かすだけならクマと同じなんです。三時間やっても十分でも同じなんです。肝じんな部分の鍛え方、どこの筋肉をどう動かすか？　漠然とやってりゃダメですね。

川端　なるほど、よくわかりました。〝金メダル〟の秘訣が……。（笑）

話題を提供

長崎国体は、ひとことでいえば、かってない盛況のうちに、新潟の総合優勝で閉幕した。

競技面では、総評にもあるように、一部、ものたりない点もあったが、反面、今大会に、これまでにないほど、報道関係者がつめかけて、取材にあたり全国の紙面を飾ったこと、高松宮様はじめ、多くの要賓が観戦されて、バドミントン競技の魅力をハダで感じとってもらえたこと、などは、差し引きして余りある収獲だった。

国体は全日本選手権ではないが、また逆に、それゆえにこそ底辺をなす多くのプレーヤーにとても国際試合には起用できないからである。

◆総評

選手団のマナーに問題

競技委員長　相場清一

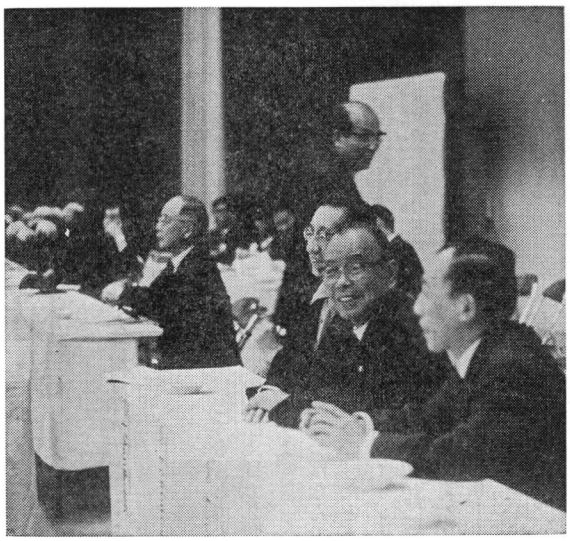
最も印象的なゲームは、高校準決勝、大阪―栃木の激突だった。だれしも「これが優勝戦だったら」と思ったことだろう。夏の高校総体決勝の再現となった柴山―石崎は、文子どおり高校最高レベル。ユ杯代表に続くコマが多いことは嬉しい。

一般男子はト杯選手に元気がなく、とくに見るべきものはなかった。ただ、新潟が愛知を破って準決勝に進出したこと、沖縄が三回戦に行ったことは喜ばしい。一般女子では決勝で高木―高橋の対決に期待したが、高橋に昨年の全日本のときのような確実さがなかった。次期ユ杯の中心となるべき選手だけに、一層の努力をのぞみたい。

高校男子で新潟の優勝は期待されていたが、混成チームを短期間に、これまでにした阿部監督は立派だった。教員男子、熊本―岡山の決勝、毛利と工藤の対戦で、ベテラン毛利のゲームを捨てない真面目なプレーに脱帽したい。

マナーについては、いろいろ問題があった。高校女子でサイドにいるときも、プレー中にもキーキー声で、ファイトとか、ソレーとか、エイとか、いい続ける選手が何人かいたのには閉口した。かねての習慣らしいので、その場では軽く注意する程度にとどめたが、観衆のおとなしさにくらべ、どうにもガマンがならぬほど、騒々しかった。指導者の猛省を促す。これでは監督の態度にも問題はある。平気でサイド・コーチをしたり腕だけでなく、脚も組んで、ふんぞりかえってどなりつけるのは、いただけない。

線審について。そのへんの中学、高校生を大会前に特訓すれば間に合うという観念をすてる必要がある。それにしても相当名の通った選手で、地方の大会となると眼の色変えて線審に突っかかっていく人がおり、大方のひんしゅくを買ったのは残念だ。少しはガマンも必要だし、抗議にもマナーがある。



▲ 最終日決勝の熱戦を観戦する栗本国体委員長

◆高校女子評

栃木の健斗にも拍手

予想どおり大阪が優勝した。決勝の対岐阜戦では、ダブルスに高崎・大場組を足用する余裕を見せての楽勝だった。高崎・大場は昨年の高校総体三位。ことしは国体で初めて組んだが、一年余のブランクを全然、感じさせず、実力どおり岐阜の及川・脇田組をくだし、シングルスでエースの柴山が完勝しての栄冠だった。

岐阜、大阪ともに準決勝では苦戦したが、大阪の場合は栃木の石崎に食い下がられただけ。しかし、岐阜は単複にわたり、全力を出し切っての決勝進出。それに満足?したわけではないだろうが、決勝では、いささかファイト不足が感じられた。

惜しかったのは栃木。三位には終わったが、石崎の健斗は柴山につぐホープとしての大きな期待を抱かせた。大成を望んでやまない。

決勝進出した両チームで特筆されるのは、コート・マナーがよかったこと。高校生らしく、一服のすがすがしさを感じさせた。

（小飼栄一）

長崎国体盛況裡に……

特集① 豊富な

とっては、かけがえのない〝ひのき舞台〟でもある。今後は、競技自体の充実に努力し〝花も実もある〟大会としていきたいものである。

今号では、できるだけ広い角度から、国体について報道するよう心がけたつもりだが、一部不行きとどきの点は、お許しを願いたい。

なお、第3号の〝国体速報〟中、一般男子評は小宮淳宏氏、教員男子評は岡村英男氏の担当でした。ここにお断わりさせていただきます。（全記録の詳報は記録ページに）

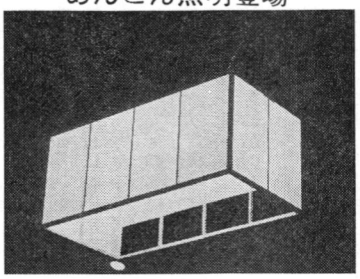
◆高校男子評

苦しみ抜いた新潟

富山、石川などの強豪がひしめく北陸ブロックを勝ち抜いてきているだけに戦前の予想も大方新潟に集中していたのではあるが、大会を通してみると決して抜群の力を示したわけではなく、二回戦の宮城にしても、準決勝で食下がった地元の長崎にしても内容的には相当に新潟を苦しめていた。

さて決勝戦は高校総体で準優勝の桐生商を軸とする群馬が対戦した。この試合のポイントはダブルスであり、これに勝ちを収めた方が後の試合を有利に展開出来るので、いきおい熱のこもった戦いとなった。特に群馬ペアの桐生・内田はインハイ個人戦で二位を果しており、コンビ良く、即成ダブルスの本間・小泉組を終始まどわせ今一歩のところまで追い込んだが、最後は新潟勢の長身を利した鋭いスマッシュ攻勢の前に降った。シングルスは前日の試合でエース小泉が足をつらせ、本間が出たが、左腕独得の攻めと気力でねばる一の瀬を圧倒、新潟、に勝利をもたらした。また選手個々に感じたことは個性的なプレーヤーが少なく、総じてスケールも小さく、明日を背負う男子陣としては少しばかり物足りなさを感じたのである。（秦浩）

あんどん照明登場



ご紹介します？

昭和三十九年の新潟国体以来登場したこのアンドン型吊下げ式照明装置。何とも純日本的なしろものである。時、奇しくも長崎はバドミントン伝来の地として一躍名をはせた土地（本誌第三号で紹介）。その会場に出現した近代スポーツの粋〝バドミントン〟と日本の伝統美のコントラストは改めて見直された感じ。照度はもちろん競技規則に適合しているので問題はナシ。

一説によるとユ杯東京大会でも使用したらという意見もあったとか。

だが、プレーする選手の評価はマチマチ。

☆ ☆ ☆ ☆

優勝のよろこび

☆ ☆ ☆ ☆

一般女子　岐阜・天野監督

本当によくやってくれた。なにもいうことはない。昨年の全日本で高木が高橋に負けているので少し気がかりだったが…。

国体のため、県では強化合宿の一環として週に二、三日、夜三時間ぐらい一般男女が集まって練習を積んだ。

高校男子　新潟・阿部監督

戦力的に見て絶対の自信はなかったが、その点を気力でカバーできたのが優勝の因だ。選手が新発田、新潟、三条に分かれていたので、これをまとめることがポイントだった。

大会のペースは決勝を目標とし、試合では緊張、その他はリラックスを心がけた。

一般男子　山梨・田村監督

昨年優勝しているだけに、アトへはひけなかった。決勝は小島―秋山のつぶし合いがなければ優勝できると思い、オーダーを組んだ。これで来年からの県の強化策も軌道に乗ることと思っている。

ヘアピン

体協幹部もズラリ観戦

ヒナ壇におえら方がずらり―国体には主催者である日本体育協会（日バ協会の加盟上部団体で、アマ・スポーツ界の最高組織）の幹部も役員として参加、各会場を視察するのが例。

残念なことに、わがバドミントン競技には、このところ、これら幹部の来場がほとんどなかったが、今年は最終日に高松宮様がお見えになったのを始め、竹田ＩＯＣ委員、河野陸連会長（体協理事、参議院前副議長）栗本国体委員長ら、お歴々が連日、姿を見せて観戦した。

川端日バ理事長が高松宮様に高木・天野のコンビ（岐阜）を「世界タイトルをとった名ペアです」とご説明したとたん、高木選手が二本続けてエラー「ダメじゃないの」とやり返されるひと幕もあった。

しかし、体協幹部たちは「なるほどバドミントンは美しくて激しいスポーツ」「国民的なスポーツに最適」と、次の視察の予定を取り止めてまで、熱心に観戦。

「ようやくバドミントンも認められた」と協会筋も大喜び。

〝〝〝〝〝国体天覧のこと〝〝〝〝〝

日本協会副会長
森友徳兵衛

国民体育大会は日本のバドミントンを世界のトップに押上げた原因の一つと云える。昭和二十四年第四回への初参加のため全県に普及し、各支部協会が結成されてNBAの組織が完備された。正式種目となったのは翌年の名古屋市からで、国体の発展とともに本競技も華やかなものになり、女子の連続世界制覇の今日ようやく陽が当る競技となった。初参加から数えて二十年を越え、当時生れた人達が今プレーヤーとして活躍していることになる。

その間、第九回札幌、第十四回足立体育館、第十七回倉敷、第二十二回越ケ谷と四回の行幸を賜わっているが、倉敷ではその夏ジャカルタの第四回アジア競技大会正式種目に初出場選手男女各三名中、男女各二名が出場していたので、御前に並べて拝謁を賜わった。戦後のドライな彼、彼女らしくもなく感激で膝が震えたものがいたと聞いて意外に思い、また内心そのことが嬉しくもあった。越ケ谷では前年ユ杯優勝チーム八名中、七名がいたので学生一名も東京から呼んで両陛下にユーバー・カップとともに拝謁させた。特に小宮監督とカップを持つ高木主将が御そば間近に伺候して御言葉を賜わったときは〝バドミントンもやっとここまで来たか〟と嬉しくて思わず涙がこみ上げた。

両陛下には選手の世界での活躍ぶりとともに国産用具について業者の並々ならぬ苦労の結果今日やっと国際的トップ・レベルに負けないものができるようになったことを奏上し、御喜び戴いた。カップにはった優勝国ペナントにつき皇后様の御下問があり、御答え申上げるとともに、余白の一周を全部「日本」で飾りたい（一周するには百年かかる）と申上げ〝しっかり頑張って下さい〟との御言葉を戴いた。なお皇后様はラケットを御手にとられ本競技に御心をよせられた。私の理事長としての国体は秋田に初まり福井に終ったが、このときの自分は全国の会員、関係者全員の喜びと等しく、一生忘れられないものであった。

□　□　□　□

ミニ・インタビュー

〈ききて〉秦　浩

――秋山とやりたかった？

「もちろんです。山梨としての事情はわかるが、競技の発展という大きな目から見た場合、二人は絶対に戦うべきだった。それで敗れたのならぼくもすっきりするが、なんとなく、あとあじが悪い」（小島一平選手）

×　×　×

――選手たちのマナーは

「お茶をのむときも、きちっとあいさつなさるし、私たちにもご苦労さまと声をかけてくれました。よい方ばかりで…」

――お世話係として、とくに気をくばられた点は

「各地からお見えになった皆さんに、不作法にならぬよう。印象よく帰っていただければ嬉しい」（諫小地区婦人会・林可寿枝さん）

×　×　×

――一線級選手を見ていろいろ収獲があったと思うが

「スナップやバネがぼくたちとは全然ちがう。そして頭脳的にも、すごく良いコースをねらっている。そういう点で学ぶことが非常に多かった」

――地元ということで、どんな強化練習をしたのか

「徹底的に基本のマスター。試合形式を主体にやった。よそからコーチを呼んだことはない。自分たちだけで努力した」（長崎県高校男子・一ノ瀬通、佐藤彰君）

×　×　×

――優勝の自信は

「コートはよかったが、照明はコートとコートの間が見えにくかった。でも試合はどんなに追い込まれても負ける気がしなかった」（高校女子・大阪の柴山きよ子さん）

ヘアピース

本誌も飛ぶ売れゆき

国体会場の諫早市立体育館では、バドミントン史上、初めての〝ささやかな試み〟が三つ実現した。

第一は日本協会、地元長崎県協会が本誌「バドミントン界」を即売したこと。創刊号はユ杯特集、二号は折よく〝長崎で和蘭陀屋敷紅毛人羽球之図発見〟が掲載されていたため、ファンに引っぱりだこ。

島原市のレスリング会場では五輪選手強化資金集めのため、金メダル選手のサイン集色紙を一枚六百円で売ったが、この方はサッパリ。この明暗は〝国体商売〟と題して二、三の新聞に報道された。

第二は長崎協会が、この〝和蘭陀屋敷〟ユ杯スナップ〟と二つの写真集を張り出し、会場にいろどりをそえたこと。

もう一つ、地元の長崎が原爆被災二十五周年を記念して、会場に募金箱をそなえ〝被災者に愛の花束〟と呼びかけた。

箱をのぞくと、中味は最終日を待たず、ぎっしり。千円札も多かった。長崎協会は、これを県を通じて贈るという。

第24回 国体得点分布表

	一男	一女	教男	高男	高女	計	順位	女子順位
北海道		2.5	5.0	2.5	2.5	12.5	④	⑦
宮城				2.5		2.5		
山形					5.0	5.0		⑦
栃木					6.0	6.0		⑤
群馬				7.0		7.0		
東京	6.0	7.0				13.0	③	④
神奈川	7.0		2.5			9.5		
新潟	5.0	5.0		10.0	2.5	22.5	①	③
山梨	10.0					10.0	⑦	
富山	2.5					2.5		
石川	2.5		6.0			8.5		
愛知	2.5					2.5		
岐阜	2.5	10.0			7.0	19.5	②	①
京都		6.0				6.0		⑤
大阪			2.5		10.0	12.5	④	②
奈良				6.0		6.0		
岡山			7.0	2.5	2.5	12.0	⑥	
香川		2.5	2.5	2.5	2.5	10.0	⑦	⑦
福岡		2.5				2.5		
長崎		2.5	2.5	5.0		10.0	⑦	
熊本			10.0			10.0	⑦	

国体歴代優勝記録

種別 / 回	一男	一女	高男	高女	教男	総合
5	東京	神奈川	北海道			神奈川
6	東京	愛知	愛知			愛知
7	神奈川	石川	東京	兵庫		神奈川
8	神奈川	神奈川	北海道	宮城		神奈川
9	岐阜	宮城	愛知	福島		愛知
10	神奈川	福島	東京	岡山		神奈川
11	神奈川	宮城	神奈川	香川		岡山
12	神奈川	香川	神奈川	香川		神奈川
13	東京	香川	山形	香川		東京
14	神奈川	神奈川	宮城	香川	神奈川	神奈川
15	東京	富山	神奈川	富山	石川	富山
16	東京	富山	新潟	山形	石川	秋田
17	東京	香川	新潟	富山	石川	富山 東京
18	愛知	秋田	新潟	栃木	石川	新潟
19	愛知	香川	新潟	栃木	新潟	新潟
20	愛知	岐阜	富山	大阪	石川	岐阜
21	愛知	岐阜	新潟	山形	北海道	新潟
22	愛知	香川	富山	新潟	富山	香川
23	山梨	岐阜	富山	大阪	熊本	岐阜
24	山梨	岐阜	新潟	大阪	熊本	新潟



双生児姉妹も出場

全国的な大会となると、選手にも変わりダネが多い。その中異色だったのは長崎一般女子の山崎はるみ、あけみ姉妹。いわゆる一卵性双生児、肉親やクラスメートも、ときどき二人をとりちがえるほど。

日本で最も歴史の古い女学校活水女子短大生。もちろん、ダブルスを組んで出場したが、お互い、気心がわかりすぎるのか善戦むなしく、京都に敗退。

選手(ユ杯代表)らが負傷

今度の大会ではコートに合成繊維の〝フーバー・コート〟を使った。緑色の薄いマットで、六月のユ杯にお目見得したが、ほかに全国的な大会では、ほとんど使ったことがない。

足がすべらないのが特色だが慣れない選手が多いため、逆効果?な点も出て、数人の負傷者を生んだ。

この中で一番ショックだったのは一般女子、新潟の後藤和子選手(ユ杯代表)。試合中にヒザ裏のジン帯を二本も切り、全治二カ月。紙上からお見舞い申し上げます。

速報

第20回全日本学生選手権

湯木が無敵の三連勝

男子単 本間は二度目

第二十回全日本学生選手権大会は、十一月十一日から十七日まで、横浜市ほかの各会場で行なわれた。

ト杯、ユ杯の代表をふくむ学生界の第一線級が、日ごろの技をきそい合った結果、団体戦の男子は第三シードの中大が早大をくだして二年ぶり四度目の優勝を飾り、女子は日女体大が青学大にせり勝って三連勝、通算七度目（短大時代も含む）の栄冠に輝いた。

個人戦の男子シングルスは本間順次（中大）が二連勝、同ダブルスは森芳夫・池田信孝組（法大）が初優勝した。

女子シングルスは全英チャンピオンの湯木博江（日女体大）が堂々、三連勝、ダブルスはユ杯の若手ペア、相沢マチ子・竹中悦子組（新潟青陵短大）が初のタイトルを手にした。

これに先き立つ東西対抗戦は東軍が十四連勝、通算十七度目の勝利となった。

おことわり

東西対抗の成績は記録面に。他の記録詳細は次号に掲載します。

一 男子個人戦 一

▼男子シングルス決勝

本間（中大） 2（15―10―9） 0 今泉（中大）

▼同三位決定戦

寺前（立大） 2（15―9―5） 0 栂野尾（法大）

法大辛くも一失

▼男子ダブルス決勝

森田池田（法大） 2（15―7―5） 0 本間鷲尾（中大）

▼同三位決定戦

栂野尾児島（法大） 2（6―15―15―11―1） 1 今泉岩下（中大）

一 女子個人戦 一

高坂は単複ども三位

▼女子シングルス決勝

湯木（日女体大） 2（11―0―7―0） 0 竹中（青陵短大）

▼女子シングルス三位決定戦

高坂（青学大） 2（11―11―6―0―12―1） 1 小片（日体大）

湯木、複はのがす

▼女子ダブルス決勝

相沢、竹中（青陵短大） 2（15―6―10） 0 湯木、本間（日女体大）

▼女子ダブルス三位決定戦

松本、高坂（青学大） 2（15―7―7） 0 石崎、小片（日体大）

目立った竹中の進境ぶり

《総評》 小島一平（全日本選手権者）

男子団体優勝の中大を支えた最も大きい要因は気力だった。選手層の厚さでは法大が一番手にあげられていたが、どういうわけか、はりつめた気力にとぼしい選手がいたようだ。早大はクジ運に恵まれたこともあったが、よくまとまって健斗した。しかし、反面、早大の決勝進出をやすやすと許したライバル校は責められても仕方ない。

女子団体は順当。なかでは青学大が持てる力をフルに発揮した。そのほかでは東女体が東大阪を破ってベスト4にくいこんだ。東大阪は卒直にいって手駒が少ない。男子の地方勢では三回戦で日大に3―2と接戦した近畿大が目立った。

個人戦の男子シングルスは本間が団体戦での気力をそのまま持ち込んで圧勝した。中大ではほかに第二のエース今泉の今後が楽しみである。若手では日大の遠藤（一年）がいい。ベスト16で国際学生代表の鷲尾を食った。ダブルスでは法大一年でベスト8入りした草島・田所組の将来を買いたい。

団体、個人を問わず、男子の中にはト杯の強化合宿に選ばれながら、不振にあえぐ選手が散見された。ふだんの努力を望みたい。

女子の湯木はシングルス決勝で楽勝したが、途中では少しく精彩を欠いていた。本間とのダブルスは準決勝で松本・高坂組に危い橋を渡った。一方、湯木を追うものとして、竹中の進境が目についた。シングルスでは優勝はのがしたものの決勝までは抜群の出来。ダブルスも文句のない試合ぶりで、国際学生出場の自信が、はっきり現われていた。

これに反してパートナーの相沢はシングルス四回戦で小片に土をつけられ、いちじるしい不振ぶりだった。三番手の高坂は単複ともベスト3となり、全くの順当だったが、もう一つのカベを乗り越えるには、どうしたらいいかが、問題である。

総じて女子は一線級とそれ以下の間に、一種の〝断絶〟がみられた。

◆団体戦

男子は中大・女子は日女体大

▼男子団体決勝
中央大 3―0 早稲田大

中央大		早稲田大
今泉		鷲尾
2		2
15 15 12		15 15 12
14 5 15		11 3
1		0
大森		武岡
今泉		岩下
2		2
17 15 12		15 15
7 5 15		6 5
1		0
笠井田		杉山

▼同三位決定戦
日本大 3―2 法政大

日本大		法政大
牧野		本間
2		2
15 15 12		11 11
10 6		9 3
0		0
池田		高坂
杉山		湯木
2		2
15 15		11 11
10 6		1 0
0		0
池田		高橋

▼女子団体決勝
日女体大 3―1 青学大

日女体大		青学大
遠藤		牧野
2		0
15 15		8 9
13 10		15 15
0		2
梅野尾		吾妻
赤塚		平山
0		0
3 4		15 15
15 15		13 10
2		0
児島		梅野尾
湯木		本間
2		2
11 11		12 11
1 0		9 3
0		0
高橋		高坂
本間		湯木
2		2
11 11		11 11
1 0		1 0
0		0
高坂		高橋

▼同三位決定戦
日体大 3―0 東女体大

日体大		東女体大
小石		堀戸
片崎		川崎
2		2
15 17		15 15
14 5		5 9
0		0
柿藤		加光
崎井		藤中
小片		石崎
2		2
11 11		15 15
0 1		9 0
0		0
柿崎		加藤

〈優勝者のことば〉

"三冠"のがし残念

湯木選手（女子単）昨年、三冠をとっているので、ぜひ今度もと思ったが、ダブルスがリーグ戦ころから不調で、残念なことでした。夏バテで胃をこわし少しやせたが、これはプレーそのものには影響ない。シングルス決勝は、当然せって、ひいひい、いわされるかと思ったが、竹中さんは自滅したようだ。

団体はダブルスが弱いがシングルスはウチに自信があったので青学もこわくなかった。追われる立場はイヤでも意識するので、つらかった。

ねらい通りのダブルス

森・池田選手（男子複）今度にかける気持ちはひそかにあったが、大会前の練習量が少なく団体戦でもちょっとムリしたので、試合が終わるころ、やっと調子が出てきたような始末。

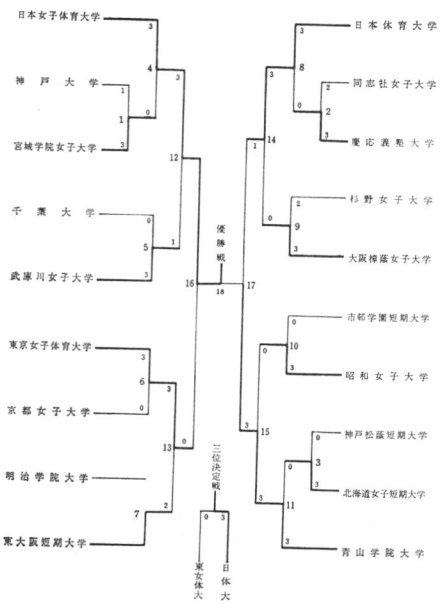
決勝の本間のペアは、鷲尾君とのレシーブ力の差があるのでこわくなかった。鷲尾を攻めるうち、本間君があせり出し、われわれの狙いどおりになった。全日本総合、ト杯もがんばる。

新戦法が成功

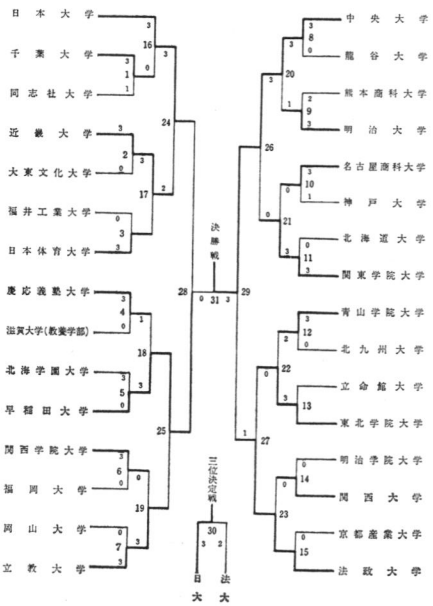
相沢・竹中選手（女子複）湯木・本間組には、クロスに対する新しいかたちをつくり、ひそかに期待していた。うまく、これに乗ってくれた。全日本総合でのダブルスは、もちろん、絶対とりたい。シングルスは相沢はスランプ、竹中は決勝でミス多く、自滅。いうことなし。

（注）男子単優勝の本間選手の紹介は、24ページ「ヒーロー」の欄に。

<女子団体>



<男子団体>



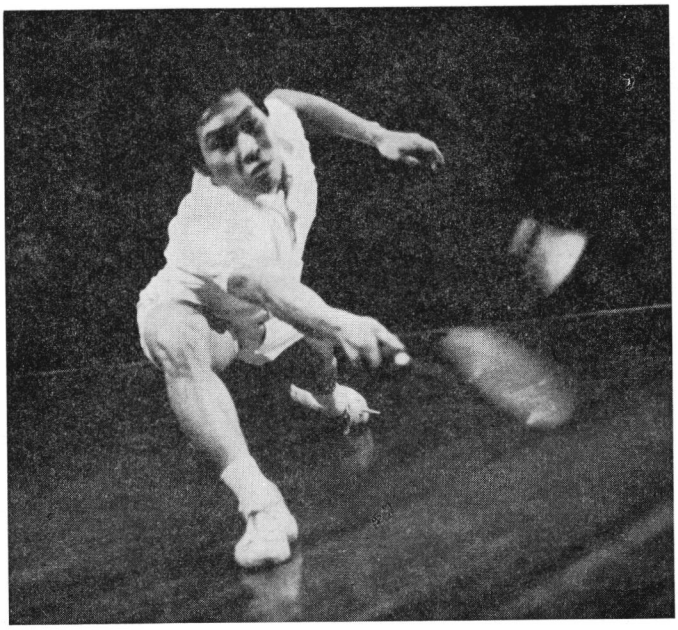
全日本総合選手権

展望

昭和四十四年度全日本総合バドミントン選手権大会は、十二月一日から六日（決勝戦）まで東京・渋谷の国立代々木競技場第二体育館で行なわれる。

ことしのユーバー杯初防衛に成功した代表のうち、後藤和子（新潟）が右脚の故障で欠場したのは惜しいが、あとは全員が出場、また来年のトマス杯をめざす男子、小島、秋山らが元気いっぱいのため白熱した好ゲームが見られよう。

特に女子では、高木・天野らに代表されるベテラン陣に、湯木、竹中、相沢ら若手がどう挑むかが焦点——。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 固い小島の三連勝

【男子シングルス】

来年トマス杯を控えているだけに男子は特にハッスルしているようだ。

まず男子シングルスを見ると小島一平（神奈川・ヨネヤマ）が第一シード。続いて、さきの全日本学生に優勝した本間順次（東京・中大）がいる。

ベスト4をあげるなら、これに秋山真男（山梨・秋山紙店）と西野一征（東京・ニシヤ）ということになろうか。

小島のグループには、今泉勉（東京・中大）関（東京・早大体育局）がいる。西野の場合、栂野尾昌一（東京・法大）が強敵となる。



秋山もやる気

また秋山の場合はベテラン宮永武司（東京・明治生命）がおり本間は堺栄一（東京・河崎ラケット）や森芳夫（東京・法大）がいる。

ベスト4が準決勝に出てくる場合、小島は今泉、関に、西野は栂野尾に、秋山は高林弘則（富山・奥野敬商店）に、本間は堺、森に、それぞれ勝たねばならないわけ。

トマス杯コーチの福井氏は、本命に小島を推し、また『秋山が今大会直前にトマス杯合宿入りをするため相当頑張る』と見ている。

だが学連関係者は小島を一番手にあげながら秋山と本間の対決が烈しいだけに、若い本間に「分があるのでは」という見方をしている。さらにベテラン堺の存在は本間、秋山も苦しいところ。さらに今泉、関、池田は小島と同型の小さいタイプだけに、小島が苦戦するのではないか？　という見方もある。

しかし『よほどのよほどがない』限り、小島一平の三連勝は有力視されている。

□□□□

圧勝か 小島・秋山の複

【男子ダブルス】

ダブルスは秋山・小島ペアの二連勝の声が圧倒的に多い。学連でもこのペアは「抜群！」と評しており、ちょっと歯が立たないのではないか。

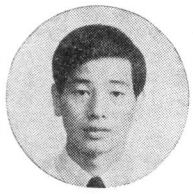
対抗に今泉・岩下（中大）森・池田、堺・栂野尾、これに西野・本間がいる。

このペアは一昨年の学生チャンピオンであり、堺・栂野尾は新しいペアだが、ダブルス巧者なので、ひょっとすると出てくる可能性が強い。

森・池田は若く元気、加えてコンビネーションがいい。一年生の時からペアを組んでいる。『気分が乗っている時はベラボウに強い』というのが、協会広報委員秦浩氏（立大OB）の意見。

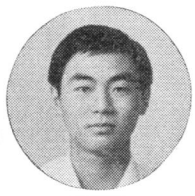
一方、今泉・岩下に賭ける期待も大きい。しかし、このグループには堺・栂野尾がいる。準々決勝でこれを破れば、準決勝で多分、森・池田に当ろう。

全日本学生では森・池田ペアが個人戦で優勝している。準決勝では今泉・岩下が破れているだけに、この試合は面白くなう


西野


堺


今泉


本間


湯木

ろ。

しかしいずれが決勝に出るにしても、ベテランでトマス杯代表、実力№1の小島・秋山にはやはり歯は立つまい。

昨年につづいて二連勝の色が濃厚である。

◇　◇　◇　◇

湯木、初優勝なるか？
ベテラン高木も健在

【女子シングルス】

女子に目を移すと、第一シードは昨年優勝の高橋とも子（東京・北辰電機）、第二にユーバー杯の女王、高木紀子（岐阜・東海女短大教）がランクされている。

高校が二連勝を狙う場合、まず、インカレ三位の高坂薫（東京・青学大）か、同じユーバー杯のベテラン天野博江（岐阜・東海女短大教）を破らねばならない。天野はダブルスは巧いがシングルはやや難。高坂が決勝に出るためには若手で新進気鋭の竹中悦子（新潟・青陵女短大）を降さねばならない。

面白い準決勝
竹中と高橋

このグループにはことしのインター・ハイで優勝した柴山きよ子（大阪・東大阪高）がいるし、本間恵美子（東京・日女体大）もいる。だがインカレの本間は調子が悪く、柴山もまだキャリア不足。やはりここでは竹中が上。高橋と竹中の準決勝は面白くなろう。

一方のグループは、湯木博江（東京・日女体大）。インカレ三連勝と好調だが、同じユーバー杯代表の相沢まち子（新潟・青陵女短大）と、同僚の浦口恵子（東京・日女体大）と同じグループ。ほかに太田節子（愛知・トヨタ自工）と池田栄子（大阪・東大阪女短大）がいるが、パワーを誇る湯木だけに準決勝へ出るのはかんたんだろう。

ベテラン高木にとっては堀川栄美子（東京・日体大）ぐらいだから湯木――高木の争いになる。湯木はことし春の全英選手権に優勝しており、高木には分がいい。だが高木の老巧なプレーは、湯木としては十分警戒せねばなるまい。

湯木が高木に勝てば決勝に進出、恐らく初優勝となろう。

ただ湯木は八月に胃を悪くして4㌔もやせており、足も細くなっている。インカレでは十分戦えただろうが、相手が高木や高橋になると苦しい。

高橋はウエートが乗ってきており迫力がある。加えて練習量も豊富だ。だが相手が高木になると同門の姉弟子だけに一歩ゆずる感じ。

「次代を荷負う折角のチャンス。ここで湯木が勝てば…」と福井氏は期待しているが。

ベスト4はやはり湯木、高木、竹中、高橋。ズバリ優勝の本命は予測しがたい。

ダブルスは高木・天野ペア有力
竹中・相沢どこまでやるか

【女子ダブルス】

女子ダブルスでは文句なく高木・天野を本命に推したい。対抗としては相沢・竹中の〝若い力〟を買いたい。

高木・天野とすれば敵は高橋・水野の東京勢ぐらい。あと柴山・高崎（東大阪高）のインター・ハイ優勝ペアがいるが、これは高橋・水野に苦しめられよう。長崎国体でも高橋は破れている。順当に高木・天野が出てこよう。

昨年優勝ペアの竹中・相沢だが、湯木・本間か松本・高坂のいずれかと準決勝で対戦することになるはず。

湯木・本間はこのところコンビネーションがよくない。

一方松本・高坂はやる気がみられ迫力がある。インカレでは湯木・本間に一日の長が見られたが、準々決勝での両者の対決は面白い。

こうみてくると百戦練磨の高木・天野にパワーの相沢・竹中が当ることになるが、高木・天野はこんどは追っかける立場にある。まったくおかしな現象でもあるが「相沢・竹中が二連勝を意識すると、やられる危険性がある」と福井、秦氏は指摘する。

決勝はいつでも見られる恒例の顔合わせとなりそうだが、ここで「柴山・高崎の若手がどの程度やるか」（福井氏）やはりベスト4に残ってほしいペアである。

（日刊スポーツ・盛川宏）


高木


高橋


竹中


相沢


天野

特別企画

まず〝人生の教師〟に

コーチをコーチする

デッドマール・クラマー

デットマール・クラマー氏は日本サッカー界〝育ての親〟といわれるドイツ人。現在、国際サッカー連盟の巡回コーチとして世界をまわっている。

このクラマーさんが、校長先生となって、今夏、三カ月にわたり、世界サッカー界で初めてという〝コーチ学校〟が千葉県検見川で開かれた。

その高度な理論、指導性に注目した日本体育協会の競技力向上委員会では、一日、同氏を招き、日本の各競技団体コーチ級の人々に特別講演をしてもらった。



集った聴講者は、六十六歳の超ベテランから二十一歳の青年まで、二十八競技八十五人（残念ながら、バドミントンからは参加者なし）

クラマー氏はサッカーを中心にしながら「よいコーチとは」について話したが、内容的にはあらゆる競技に共通することが多かったので、後日、別個にインタビューした分をふくめ、ここに再録してみた。

石器時代のレベル

ここで私は、私がどんな指導をやったか、実例をひいて、卒直に真実を話し、また、日本のスポーツ界の現実のうれうべき点を指摘して、できるかぎりの助言を与えたいと思う。

私は何度か来日したが、今日おどろいたことの一つに、学生サッカー界の貧困がある。彼等は四年間、一日平均二時間は練習に時間を使っているだろう。これは諸君、なんとヨーロッパのプロ・サッカーの練習量に相当するのだ。

ところが、日本の学生サッカーのレベルたるや、依然として〝第五流〟でしかない。つまり延べ三千時間というものは、ただ、学生がハラをすかせ、疲れただけの〝浪費〟にすぎない、ということになる。

同じ時間を使って、なぜ、こんなみじめな成果しかあげられないのか。

答えはただ一つ。コーチのレベルが〝石器時代〟にとどまっているからだ。選手が育つかどうかは（選手の努力の意志をもふくめ）すべては、これ、コーチの責任であり、能力である。

いまどきの若いものは、と諸君は反論するだろう。しかし、教えられたことを実行してみてそれが成果に結びつく、進歩に結びつくことがわかれば、選手は、たとえ、以前はイヤなやつだと思っていた指導者でも、必ず信頼し、尊敬するようになるものだ。

三カ月で国際的に

私のコーチ学校にはアジア十五カ国から四十二人が生徒として参加した。みなそれぞれに、国内では、なんらかのかたちで指導的立ち場にいる人だった。

だが、正直にいって、その約半数は、ボールも満足に蹴れないし、理論的にも強くない、いわばレベル以下の人にすぎなかった。

ところが、たった三カ月、といっても、その間、実技、理論、方法論にわたり四四四時間の講義と七二時間の試験があったのだが、結論的には全員が〝保証付き〟の国際レベル・コーチとなって卒業した。

では実際に、このコーチである〝生徒〟たちが、どんな努力をしたのか、話の中に、折りにふれて出てくるだろう。

四十七才の抵抗

よいコーチとは何か。それは第一に、模範プレーが出来る人のことである。

私はもうトシだ。とても若い人のように動くのは不可能だ。諸君は当然のように反発するだろう。だから、私はここに、その反論に対する反論を用意してきた。

それはインドから来た四十七歳のコーチのことである。

彼は、もともとゴール・キーパーで、それゆえ、足でボールを正確に蹴ることすら満足にはできなかった。だが、いま、その彼はヘディングも、モモでボールを扱うことも、足でボールを、お手玉のように突くことも連続百回は確実にできる。

これはメキシコ五輪で銅メダルに輝いた全日本チームの大部分の選手よりも技術的に数段上だ、ということである。

なぜ、そうなったか。一つには「人に教えるには、自分でやってみせられなければ（とくにいまどきの若者は）納得しない」ということを理解したからである。

そのために彼は努力をした。毎朝六時ごろに起きて、一人でグラウンドの片すみへ行って、独力で練習した。そして、どうすれば、上達するか、早道かを〝自習〟の中で発見し、学んだ

のだった。

セイロンから来た某氏は、だれもが〝あっと驚くタイコ腹〟だった。そして、このからだでは、とてもついていけないとさとり、やはり自分から汗を流して〝自習〟した結果、15㌔の減量に成功し、体力機能適性テストに、立派に合格した。

諸君、私は、こうした〝生徒〟を入れてチームを組み、試合して、日本リーグのチームである日本鋼管をコテンとやっつけたのだ。

巨腹は退陣せよ

私は先日たまたま、あるスポーツが強化合宿で、練習試合をやっているのを目にとめた。ところが、その競技のコーチ殿はタイコ腹をデンとつき出し、ときどきグラウンドのラインぎわまで足を運んでは、ピーッと首からぶらさげた笛を吹くだけ。その間にいったことは「おい、しっかりやれ」のくりかえしにすぎなかった。

日本のスポーツ選手は、きわめて規律正しい。その点は決して外国に負けない。だが、これがドイツだったら、こんなコーチのいうことは、当然、だれもきかないだろう。

相撲とりのように、おなかの出っぱった人は、それだけで、コーチ失格である。すべからく退陣して〝若い力〟を第一線に起用すべきである。

万能主義者たれ

コーチはあらゆることを知りあらゆることがやれなければいけない。だから、私の学校では技術とルールに関する全てはもちろん、チーム、協会、企業などに共通する組織論のほか解剖学、生理学、マッサージ、救急法、心理学、教育学まで、いろんなことを勉強してもらった。

さしたる学問上の根拠もなしに、過去、一流選手であったとか、名声があったとかいうだけで、年をとるとコーチの肩書きがついたり、つけることが一番いけない。

なぜなら、スポーツのコーチは技術や技術者ではなく、語学や算数の知識を切り売りすればすむわけでない。彼は選手の全人格に責任を持つ立ち場にいるのである。名選手がコーチになりたければ、やはり改めて、そのための勉強をしなければいけない。

人間を知れ

けれども、コーチにもっとも必要なのは、人間とは何か、を知り、さらに、選手の個性と特徴を完全につかむことである。この意味で、すぐれたコーチは例外なしに偉大な心理学者であり、その場合、かりに彼が技術指導者としては最適でなくてもいい選手を育てることは可能である。

チーム・ゲームの中で、一人一人を平等に扱うのはきわめてむずかしい。これは個人競技の選手を集めてチームを編成するときも同じことだが、すべて人の集団で大切なのは、ベテランを重視することだ。たとえ彼が技術上はチームの最下位ランクだとしても、彼の持つ経験と人格をまず買うことだ。そしてベテランを自分の助手にする。

コーチの側からすれば、なんでもなく、ふと、口をついて出たことばが、選手に極度の衝撃を与えることが多い。きのうまで「きみ」と呼ばれていた選手が「おい」「お前」といわれたような、ささいなことでも、問題は同じである。なぜなら、選手はつねに「自分がコーチにどう評価されているのか」気にしているからだ。

ベテランはおだて、中堅は厳しく叱り、若手には第三者のいないところで話す。これが選手をつかむ一つのコツである。

昭和44年度ランキング

≫全日本社会人≪

◆一般男子単

①小島	平一二	（東京）
②堺	憲昭司参一	（〃）
③鈴木	健善義武勇洋	（〃）
④板垣		（愛知）
⑤星野	永藤上	（東京）
⑥宮工川		（〃）
⑦⑧		（熊本）（富山）

◆一般男子複

①堺	一誠	（東京）
関	栄一	
②板垣	憲保彦司二昭春男三樹一茂初二	（愛知）
松島	善	
③長谷川	敏武健義幸久泰良洋	（〃）
安沢木		
④鈴木		（東京）
星野		
⑤鈴木		（〃）
森谷		
⑥日野		（〃）
横倉		
⑦布上		（富山）
塩目		
⑧武飽		（兵庫）

◆一般女子単

①裕	美子	（富山）
②永井	恵か	（京都）
③太倉	お節	（愛知）
④吉子	恵和	（〃）
⑤金沢	光津	（〃）
⑥沢田	美は	（富山）
⑦綾崎		（香川）
⑧山		（長崎）

◆一般女子複

①野	美子	（愛知）
田	明節	
上	つ和	（〃）
太深	繁	
②沢	お	（〃）
金	子ミ	（東京）
③有土	治	
裕	美子	（富山）
④沢	恵光	（東京）
田	津	
⑤奈	仲良井	（京都）
永	岡	（〃）
⑥岡	崎	（香川）
⑦永	下条本	
⑧山	北山	

◆混　合　複

①安	司子昭子博子憲子二ミ男江彦美広子	（愛知）
金	武和義治	（東京）
②星	良善節健ト久津敏明一つ	（神奈川）
③土	喜美川	（愛知）
④杉		（東京）
⑤板		（〃）
⑥太		（愛知）
⑦鈴		（〃）
⑧有		
森		
田		
長		
上		
小		
深		

◆30歳以上単

①遠藤	治	（神奈川）
②西田	啓寿四忠直	（熊本）
③北野	郎雄治	（大阪）
④畑		（福井）
⑤南		（熊本）

◆30歳以上複

①毛利	志之治明郎夫雄照	（岡山）
山上	清周直寿四敏俊直	
②南田		（熊本）
③西野	敬	（大阪）
④北藤片	来川平	（東京長崎）

◆40歳以上単

①毛	利	（岡山）
②畑	清忠	（福井）
③浜中	雄	（愛媛）
④山上	誠之周	（岡山）

◆40歳以上複

①毛	利	（岡山）
山上	清周忠順一諭男	
②畑	志之雄	（福井）
③山	朝見口井	（熊本）
川	国	

◆50歳以上単

①伊藤	記三	（熊本）
②社	竹	（岡山）

◆50歳以上複

①伊藤	記三	（熊本）
社	竹	（岡山）

中学校の‥‥
指導者育成を強力に

十月十八日、東京・二階堂高校で、第一回バドミントン指導者研修会が開かれた。

これは中学校における指導者養成を目的としたもので、これまでの日本では、ほとんど行なわれていなかったようだ。

中学生時代にスポーツを通じて身体をきたえることの意義と重要性は、いまさらいうまでもないが、これは同時にわがバドミントン競技界にとっても、次代をめざす選手の育成、層の拡大という点から、大変、重要な仕事でもある。

しかし、現状では、中学校でバドミントンを生徒に教えられる先生が、きわめて数少なく、これが〝底辺運動〟最大の障害となっていることも事実。

二階堂での試みをきっかけにこの種、指導者養成のための催しが、全国的にひろかることを願ってやまない。

二階堂スポーツ教室
第一回指導者研修会

今井先

一昨四十二年、二階堂スポーツ教室が発足し、主として東京都内および近隣の女子中学生の競技力向上に資するため、各種スポーツを通じ、権威ある講師による実技講習を開始した。

たまたま同高校に体育後援会が設立されたのと、姉妹校の日本女子体育大学において50㍍プールの増設に伴ない夏季水泳教が開講されたのが、直接間接の刺激となったのである。

二階堂は全国高校大会で陸上競技に二連覇して勇名をはせ、また東京オリンピックでは水泳競技の補助員となった生徒のあのユニークな制服姿での礼儀正しい立居ふるまいがテレビで放映されて、全国女子中学生のあこがれの的になった体育の名門校である。右のほか、体操、バスケットボール、ダンス等各種のクラブが活躍しており、試合成績も揃って向上しつつある。

しかし二階堂スポーツ教室の皮切りとなったのはバドミントンであった。同校教諭今井先氏（当時日バ指導委員長、後第五回ユ杯チーム監督）が日女体大のバドミントン部監督を兼務している関係から、実技指導には同部々員が6面のコートに数名ずつ配置され、有力な助手となり直接指導に当り得るなど恵まれた環境にあったためである。

四十二年度は年一回であったため一部申込が割愛されたりしたので、四十三年度には学年別に3回に分けて実施したが、いずれも百二十名の定員を越える盛況で、毎回終了後のアンケートでは是非続けて実施してほしいとの熱望が繰りかえされた。

四十四年度はユ杯大会のため第一学期は開講できなかった。また文部省の中学校指導要領にバドミントンの復帰が明らかとなったので、年3回の中最初の1回を、指導者研修にふりかえた。

幸に講師として熊本女子大学の伊藤基記教授（現日バ指導委員長）と文部省体育局の山川岩之助事務官（教科調査官）の御両名を迎えることができた。

伊藤教授は専攻が幼児体育であって、ラケット球技は少しでも年少のうちから始めるべきだとの信念から、初心者指導について卓越した手法を自ら編み出しておられる最も優れた指導者であり、山川事務官は中学校指導要領にバドミントンを採択された陰の功労者であり、次の高校体育指導要領改編への大きな抱負と明確な見通しをもっておられる方である。

四十九名の受講者には中学校の体育指導者、高校の先生方が多く、変り種としては世田谷区祖師谷小学校ＰＴＡのお母様方が数名熱心に聴講された。

また日本カアルトン株式会社の徳重英樹氏も来会され、中学校乃至高校の教科体育におけるバドミントン指導に不可欠の低廉なシャトルの供給についての明るい見通しを発言され、受講者を勇気づけられた。

特筆大書したいことは、日本バドミントン協会指導委員会がこの催しに注目し、数名の委員を派遣されたことである。

本年一月改組以来、川端理事長を中心とする新鋭の役員の意欲的な面がうかがわれ嬉しいことであった。

本年度の残る2回のバドミントン教室は、一月中旬に中学二、三年生を対象とし、二月初旬に一年生を対象として実施する予定とのことである。

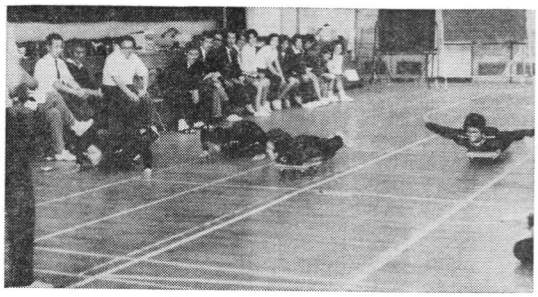
一私学でありながら、わが国バドミントン競技の伸長の一助にもと、進んで挺身する二階堂スポーツ教室の発展を見守りたい。また、嬉しいことに男子中学生を対象に日大鶴丘高でもバドミントン教室を開講するとの朗報も聞いている。

▼バドミントンは格技?!▲

ショッキングな文部事務官発言

日大鶴丘高教諭
前田耕作

◎◎◎◎



十月十八日、二階堂高校で行なわれたスポーツ教室の座談会の席上、山川文部事務官は、質疑の中で「バドミントンは格技としての性格が強い」と爆弾的発言をし、関係者をあわてさせた。

もちろん、山川事務官は、バドミントンを中学校体育の選択科目に採用するため尽力された人だけに、バドミントンの特異性を調強したかったものだろうが、われわれ関係者が球技として指導を考えている現状の下でのことばだけに、出席の先生方には、かなり当惑の色がうかがわれた。山川氏の理論は次のようである。

トレーニング実習のひとコマ ローラースケートの親玉のような器具にのってすべると、腹筋がきたえられる。

「バドミントンは格技ではないかと思う。確かにバレーボールの体形ではあるが、その動きは、飛んできたハネに対して身を動かすのだから、柔道、剣道に近い。むしろ格技である。

従ってバドミントンを通して教育する場合、道具をもつ格技として、相手に直接触れないが非常に多様な動きになるのである。相手の打球の姿勢をみて構える（守る）相手の動きの逆をつく（フェイント・モーション）ようにラケットをさばく。

しかもダブルスは少しちがうかもしれないが、シングルスはまさに1対1の技のかけ合いであり、他のメンバーとの連けいによって体形を組むとか、他の協力を得て自分の攻守を有利にするわけにいかない点に特色がある。従って柔道、剣道のように人一倍精神力が必要となる。

右かと見せて左へ、スマッシュと見せてドロップと、変化による攻撃が主なことを考えてもトレーニングの方法に格技的要素を多くとり入れることが必要だと思う。

バスケットやバレーを習得すればバドミントンはやらなくてもよいのではなく、こうした競技にない動きや身のこなしを教えるのがバドミントンだ。

なにしろ小中学生にバドミントンを通じて激しい動きを習得させる、動きの多様性に順応させるためにも、格好のスポーツであろう」。

紙面の関係で十分いいつくしたとは思わないが、今後の大きな宿題のひとつであろう。

なお、そのほかバドミントン導入法などについて話し合ったが、最後に山川氏いわく

「最近の中学校では、廊下は走れ！階段は走って上れ？と指導する校長がいるくらい、体力づくりの問題は急務のようですね」と。

小島君に栄えのスポーツ賞

全日本チャンピオンの小島一平選手（三五）＝ヨネヤマ・ラケット勤務＝が、神奈川県のスポーツ賞に輝いた。

この賞は神奈川県と神奈川新聞が主催するもので、文化とスポーツの二つがあり、県民として、この二つの分野にすぐれた功績をおさめ、県の名声を高めた人々に贈られる。

審査には「鞍馬天句」や「帰郷」「パリ燃ゆ」などで知られる作家・大仏次郎氏はじめ、おえら方があたっており、ことしで十八回目。

スポーツの分野では、小島君は浅野緯彦氏（全日本実業団陸上の五千メートル優勝）笹原富美雄氏（世界柔道選手権、軽重量級優勝）とともに選ばれた。

晴れの受賞式は、文化の日の十一月三日、横浜市の県立音楽堂で行なわれた。千三百人の人々がスタンドをうずめるうちに県民歌〝光あらたに〟の合唱で開幕、津田知事が「県民の体力と精神力を象徴する立派なスポーツマンとして、県民の士気を高め、スポーツ界の向上に大きく寄与した」とあいさつした。

受賞者には賞状と記念品が手渡され、式のあと、イタリアから来日したイ・ムジチ合奏団の演奏などがあった。

小島選手は横浜の出身。大島中一年からバドミントンをはじめ、高校二年のときには、インターハイの決勝で、安沢（新潟商）相手に三時間という驚異的なマラソン・ゲームを展開したことがある。

中大二年で関東、東日本、全日本の〝学生三冠王〟となり、全日本は四十一年から四連勝しており、全英選手権では今年度のベスト4。

小島選手の話　初めて受賞の知らせを受けたときは半信半疑でした。来春の全英には、なんとしても決勝に進みたい。競技は一人でできるものではなく、ここまで来られたのは、同僚やよきライバルの人たちのおかげです。

北から南なら



が県彰
川奈表
神

ラケットの正しい握り方

幼少年編 ③

伊藤基記

前号までは幼少年時代の子供達にバドミントンを覚えさせるために、指導者の立ち場にある大人がどうしたらよいか、ということで筆を進めてきましたが今回からは小学生の上級、中学生諸君に直接話かける立場から述べていくことにします。

1・ラケットの握り方（グリップ）

バドミントンはシャトルをラケットで打つ（ヒットする）スポーツですから、どんなふうにラケットを握るかが、まず問題になります。

皆さん方の掌、指、腕、肩をはじめ身体全体がまだ十分に発達していないのですから、ラケットのハンドルがぴったりと掌と指におさまることは無理ですが、将来、大人になったとき自然に正しい握り方になるよう工夫しておく必要があります。

ラケットの握り方（これからはグリップといいましょう）には、大別して二通りが伝えられてきました。ウェスターン・グリップとイースタン・グリップです。英本国に興ったテニスが米大陸に渡ったとき、西海岸地方と東海岸地方の人々のグリップが、対照的に約90度の開きを持っていたらしいのです。

ラケットを床に伏せておいて上から腕をたらした西部の握り方がウェスターン・グリップとなり一つの型をつくりました。現在の軟式テニス（軟庭）はほとんどこれに固まっているようです。

このグリップは軟式のストロークのように横打ちのときに自然にドライブ（バドミントンのドライブとはちがいます。球を上からかぶせるようにこすって球に下向きの回転を与え、球のアップを防ぐ）がかかるのが有利な場合、また身体を正面に向けたまま、ラケット面を突き出すようにして（軟庭のボレーやバドミントンの特殊のストップやドライブ）ヒットする場合に用いられてきました。

特別に注意しないで〝さあバドミントンをしましょう〟といいますと、ほとんどの人はラケットをワシづかみにして、このウェスターン・グリップに近い握り方でサービスやストロークをやり始めます。

しかし、このグリップを主として常用することは、バドミントン・プレーヤーにとっては好ましいことではありません。

リーチがせまく（ラケット面のとどく範囲が狭くなる）手首の自由がきかず、強打したりストロークに微妙な変化を与えたりすることがむずかしいなど、不利な点が多すぎます。

一方、イースタンは手首の自由がきくなど、ウェスターンの欠点を十分、補うものですが、真正面にきたバードは、体を横に開かなければ打てません。

もちろん、ラケットのガット面を床に垂直にして、握手するように（シェークハンド・グリップ）タテ握りをするわけですから、体を正面に向けたままラケットを握ったのでは、ラケットをホウチョウにしてシャトルを切るようなもので、当たるはずがありません。

体を斜めに（横に、斜めうしろに）構え、体の捻転とともにヒットするとき、この握り方が生きてくることを忘れないで下さい。

体も捻れば、肩も回り、ヒジも動き、手首もフリックやスナップの動きを利かせることが必要になってきます。そのときはどうしても、このタテ握りともいうべきイースタン・グリップに近い（バドミントン・グリップという）ということに必ず落ち着きます。

この握り方は、しかし、初心者にはなじみやすいものではありません。

そこで毎号、私が力説したように、イースタン・グリップに近い、バドミントン・グリップで軟式テニスの球突きや、ころがし合い、シャトルの連続上突き、初歩のストロークをしているうちに、自然にこのグリップに慣れる―グリップが生れ育てられる―ような過程が望ましいわけです。

いきなりシャトルの打ち合いをして、悪いクセをつけないように、先輩や先生方の注意をよくきいて下さい。

この悪いグリップのクセを取るために、何年も苦心する人が意外に多いのです。最後にもう一つ、よいプレーヤーの打球ぶりを、真うしろから、あきずに〝自分がヒットしているつもりで〟ながめて下さい。正しい握り方、振り方を皆さんは目からも覚えることになるはずです。

◇ ◇ ◇ ◇

読者から

◆勤めている女性がバドミントンを楽しむ方法、また勤めながら技術の向上を望む場合、自宅でできるようなトレーニング方法、また技術の向上を望むのは可能か不可能か、などは今の私にとって是非知りたいことです。教えて下さい。

（京都市・北村真木子）

◆来年の岩手国体を控え、岩手のバドミントンのレベルアップと自己技術、精神面の強化法、これからのバドミントンの方向など、ご指導いただきたい。

（盛岡市・佐藤幸子）

編集部から――次号でいずれもご回答いたしたいと思いますので、お待ち下さい。

＜サービスの重要性＞

上級編 ③

〝女王〟の明暗分けた一打

……高木×ハッシュマン戦の教訓……

毛利清志

第3ゲーム10―8――一九六七年三月、ロンドン郊外ウエンブレイのエンパイア・プール。第57回全英選手権女子シングルス決勝――この大会初出場の高木は米国のベテラン、ジュディ・ハッシュマン夫人を向うにまわし、ついにマッチ・ポイントを握った。

ハッシュマンは全英優勝九度ユ杯でも第一回―第三回の十年間にわたり、米国にタイトルをもたらしたヒロイン。

だが、六六年、第四回ユ杯大会に初参加した日本は、インドネシア、英国を連破、チャンピオン米国に挑戦した。

そして、ときの主将高木は第一シングルスでハッシュマンにストレート勝ちし、ユ杯獲得の原動力となった。すなわち、日本はハッシュマンから女王の冠を奪うと同時に、米国を王座から引きずりおろしたのである。

それから十カ月後の全英選手権。名誉挽回を狙うハッシュマンの心中は察するにあまりあるものがあったが、マッチ・ポイントまでいっては、どうしようのない。

ついに新しい女王の出現――スタンドは水を打ったように静まりかえり、かたずをのんだ。

ところが――

つぎの一瞬、高木の放ったロング・ハイ・サービスが、わずかに大きすぎ、バック・バウンダリー・ラインを割ってしまったのである。

サービス権がハッシュマンに移り、追いつかれ、追い越されそれから五分後、高木の夢は無残にも打ち砕かれていた…。

話は変わり、これからさきは高木選手の語る、その苦い思い出と筆者の〝考察〟になる。

「あの日の対ハッシュマン戦で、私のロング・ハイ・サービスが、どうも不安定だった。だから、一度はショート・サービスに切りかえようと思ったんです。でも、そのことが自分を消極的な気持ちに追い込み、失敗した経験がありますので、考え直し、思い切り大きなロング・ハイ・サービスで勝負しようとしました。

でも、ついリキみすぎたんですね。あの〝一打〟がうまくはいっていてくれたら、といまでもフッと思い出します」

〝一打〟が分けた明暗――これを、もう少し掘り下げて考えてみよう。

高木選手はハッシュマンにくらべ、若かっただけに、マッチ・ポイントをモノにしたとき、考えすぎたのではないか。別のいい方をすれば、心に迷いを生じた、ともいえる。

淡々とした気持ちで自信を持ってサービスを打ち上げれば、恐らくアウトにはならなかったろうし、日本人初の全英チャンピオンに輝いたと確信する。

一方のハッシュマンはさすがにベテラン。マッチ・ポイントを握られながら、冷静にサービスのアウトを判断する余裕を持っていた。

筆者自身、高木選手にはユ杯合宿などを通じ、たびたび接しているが、シングルスでの彼女のサービスは、技術的に見ておせじにも上手だとはいえない。大方の読者も、彼女のロング・ハイ・サービスが、右肩を軸にした、いささか変った珍らしいスタイルで放たれているのを見憶えがあろう。

このサービスは、肩がはいりすぎるために、インパクトの瞬間、シャトルにカット性が加えられるため、しばしばタマ足が短くなり、みずからを不利なスタートに追い込んでいるのである。

彼女は自分のサービスについて、次のようにいっている。

「…私にとって、サービスは最も不得意なストロークのように思われます。今までの試合を振り返ると、負けた試合はすべてサービスが悪かったことに、その原因があるといっても過言ではないような気がします。

そこで、自分自身も、いつも効果的なサービスをと、心がけるつもりでいながら、ついついつい敗戦の〝あとの祭り〟になってしまうことが、しばしばあります。従って、これからの皆さんに対しては、より有効なサービスの体得ということを、特に強調したいと思います。

しかし、あくまでも一本のサービス・エースをとることよりも、一本のサービス・フォルトをしないようにすることの方が大切だと感じます…」

読者の皆さんもマッチ・ポイントを握りながら、サービスを失敗して、ついに敗れた体験を少なからずお持ちであろう。

その苦い体験を持ちながら、サービスについて真剣に考えたり、サービスの練習にも、ある程度の時間をかけているだろうか？

技術練習のなかで、もっともおろそかになりやすいサービスについて、お互いに猛反省をしなければなるまい。

（話題を提供いただいた高木選手に誌上を借りて厚くお礼を申し上げます。）

筆者紹介　毛利清志（四三）日体大出、協会常務理事、同指導副委員長、山陽学園高校教諭、第五回ユーバー杯コーチ

技術講座

百万人のバドミントン上達法

連載

中高校編 ③

基礎体力の養成（続）

スピードのトレーニング

遠井稔男

基礎体力で一番難かしいのはスピードの養成であろう。スピードには素質的な要素が含まれているともいわれ、またトレーニングによって、あまり高まらないというのが常識になっている。

バドミントンにおけるフライトは、非常に複雑なリズム的変化があり、特に全力で打ったスマッシュやクリアーには、スピードで反応し、処理しなくてはならないため、スピードのトレーニングは非常に大切で、選手の養成の重要なカギになっている。

（一）スピードをつけるには

①反応の早さ……スタートをよくする。筋肉の収縮の速度を早くする。注意の集中力をつける

②反復の早さ……左右の脚がピッチで早く反復する力をつける。筋肉の収縮速度と神経の切り替え作用を早くする

③走る早さ……フットワークを上達させる。ピッチ・ストライドを早くする

（二）スピードのトレーニングには次の要素を考慮に入れる

①原則

○スピード・パワー（力×スピード）の運動は最も調子の出たところで行なう

○特に大切なことは、常に最高スピードで練習をくり返すこと。全力を出さなかったり、疲労していたりしては効果があがらない

○力の要素の小さい連続運動では約5—15秒がよい

○力の要素の大きい連続運動では5秒前後がよい

②神経のトレーニング

○合図に対する反応をくり返す

○精神の集中のけいこをする

○短時間の急速なステップを行なう

③筋肉のトレーニング

○筋力を強める

○パワー（力×スピード）を高める

○筋肉の収縮と弛緩がすみやかにできるようにする

（三）基礎体力とバドミントン競技の位置

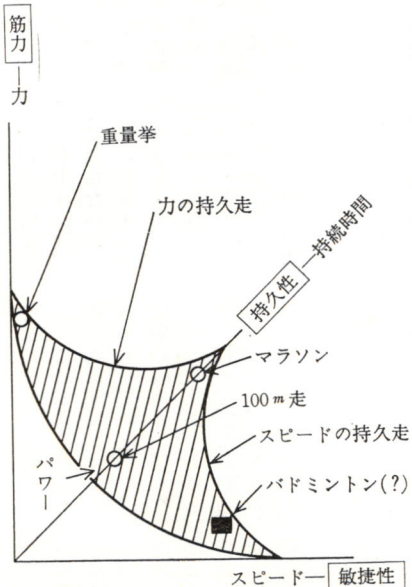
基礎体力で特に筋力・持久性・敏捷性の関係を、猪飼教授は別記のように図示しているが、この曲面上で、バドミントン競技がどの位置に配置できるかを考えてみたい。

バドミントン競技の運動的要素を考えてみると、筋力関係の曲面上ではなさそうである。また持久性もさほどではないとすれば、やはり敏捷性の要素が大きく、その曲面上に配置できると考える。

バドミントンはスピードを必要とする競技であり、そのトレーニングが大切であることがわかる。

基礎体力を十分に養成した場合において、バドミントン競技に必要な体力のウエイトは、敏捷性・持久性・筋力を6・3・1の割合にしたいものである。

こんな時点でバドミントン選手を養成してみたいと思うのは私だけではあるまい。



体力構造

熱戦とよろこびと〈国体特集〉

▶ 3年ぶりに総合の王座を奪回した新潟の胴上げ





長崎国体のハイライトは、一般女子の決勝、高木（岐阜）と高橋（東京）の顔合わせだった。

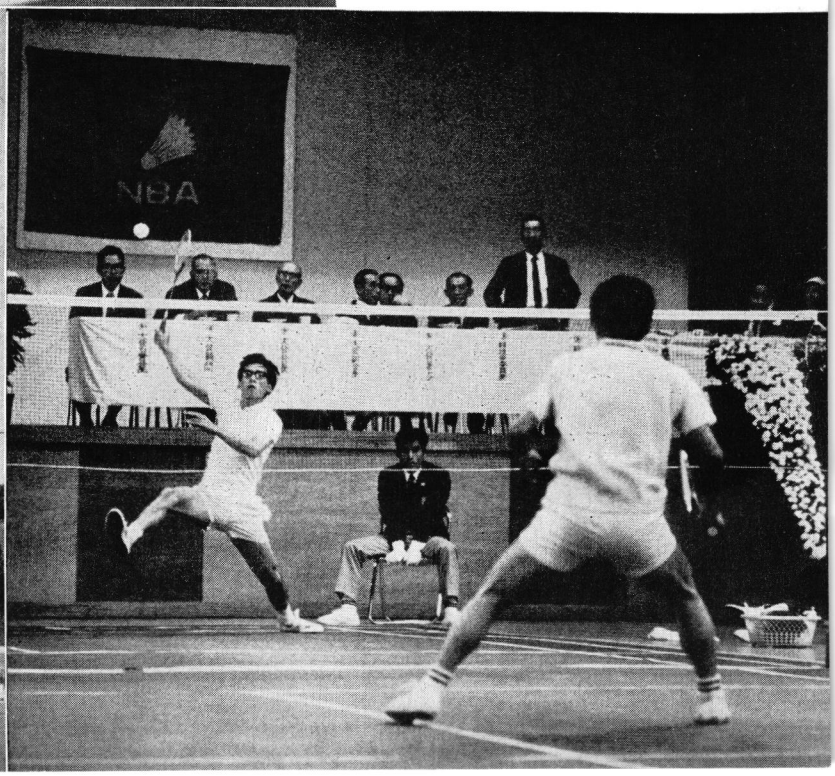
これは昨年度の全日本選手権決勝の再来。このときは、高橋がストレート勝ち〝新しい女王〟出現〝高木も、そろそろ〟などといわれたもの。

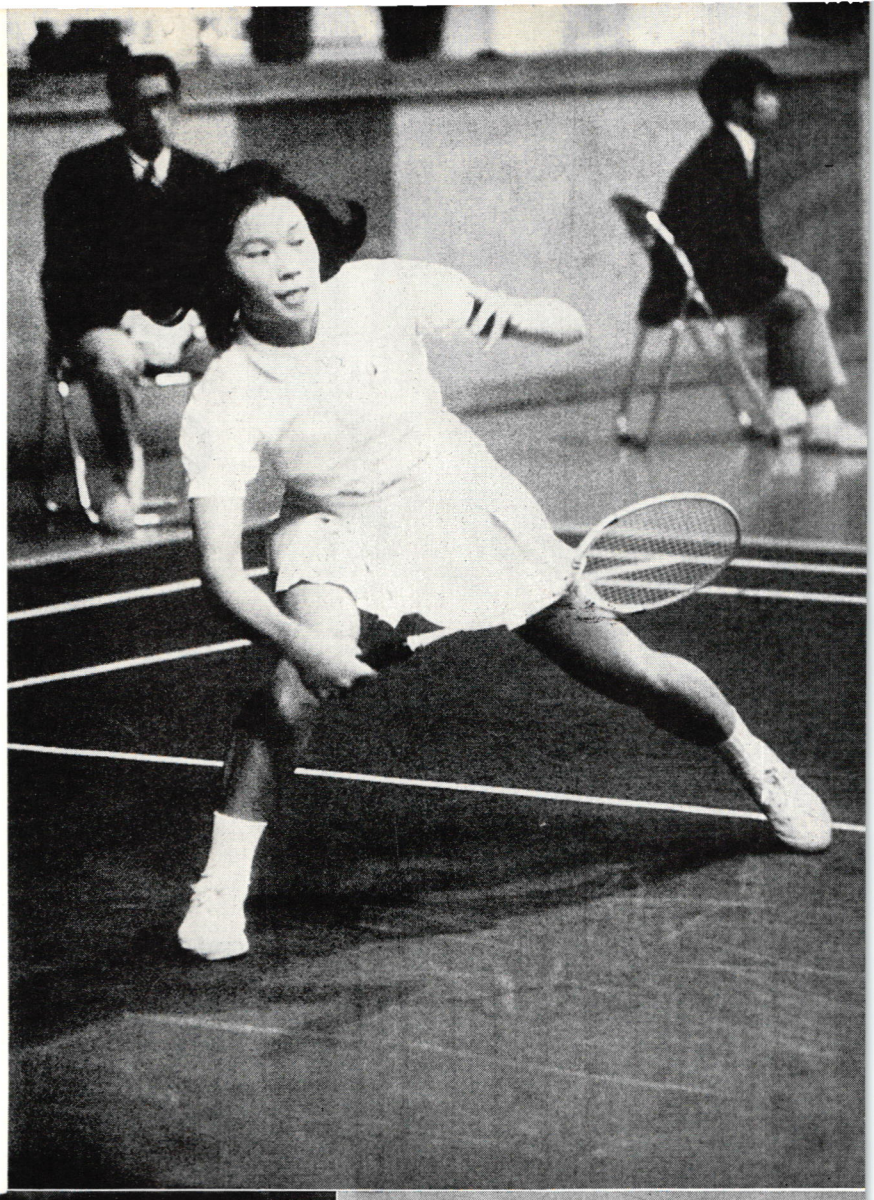
以来、二人の対決は10ヵ月ぶり高橋は、この国体の決勝前「ぜひ私と当たるようにして下さい」と高木のところへ申し入れに行ったという。

だが、結果は――スタンドに改めて〝高木おとろえず〟を再認識させただけだった。試合後、高木が、ひそかに胸をそらしたか、自分を追い抜く後輩のいないことにがっかりしたか、は聞きもらしたのだが……

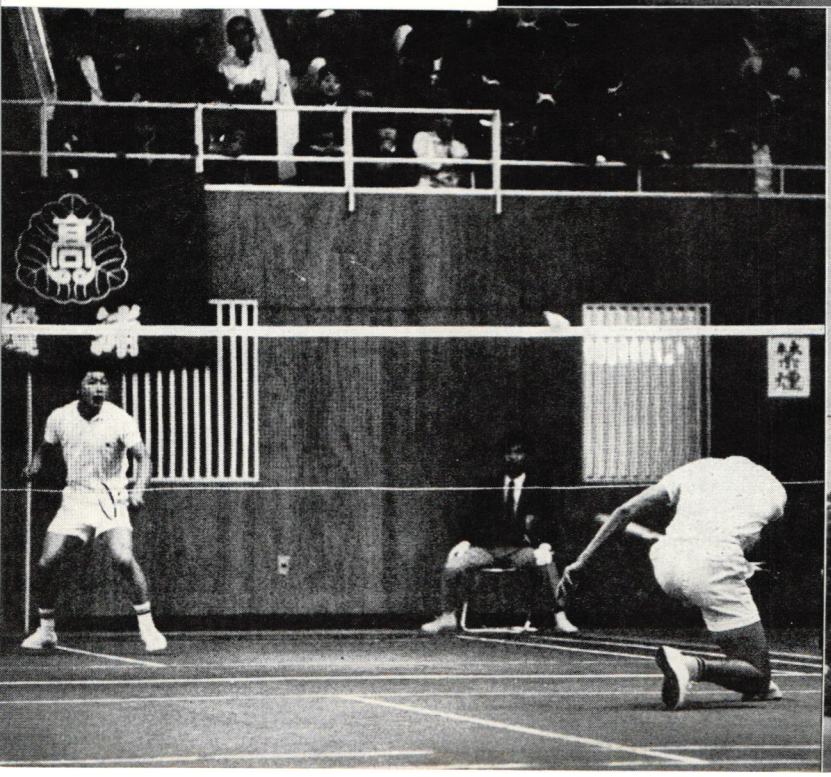
◀左・高木、右・高橋





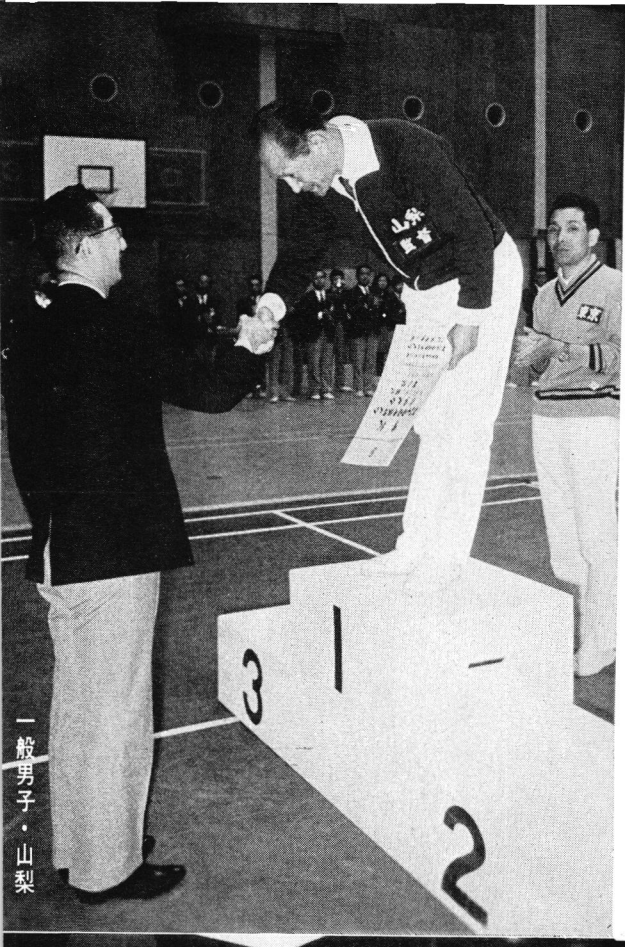


▼下欄(左)高校男子、(右)一般男子の決勝、(中)は主会場・諫早市立体育館の前景

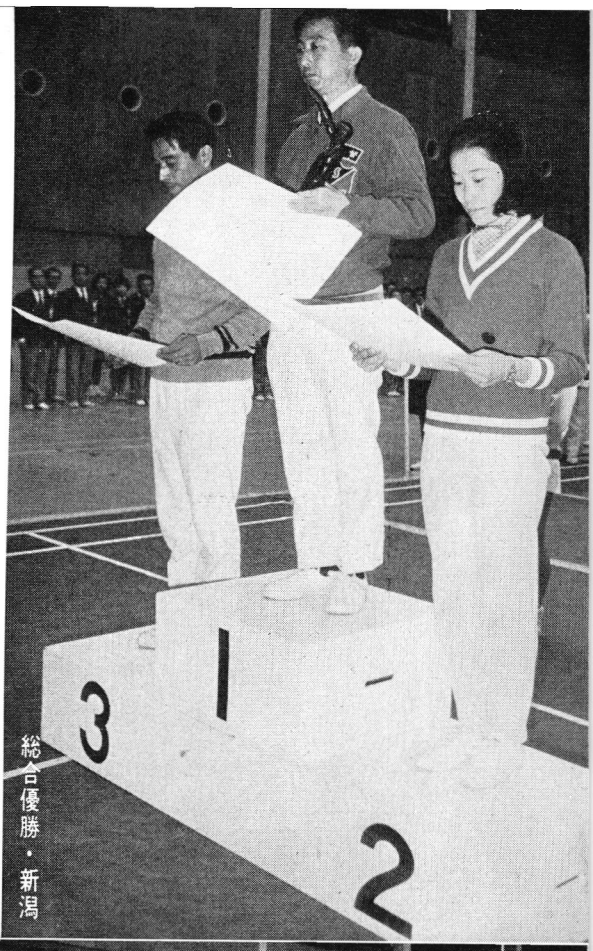




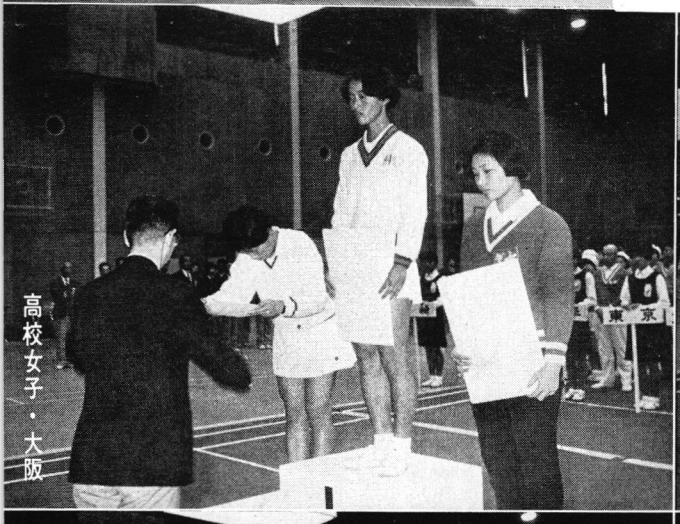
受賞の感激



一般男子・山梨



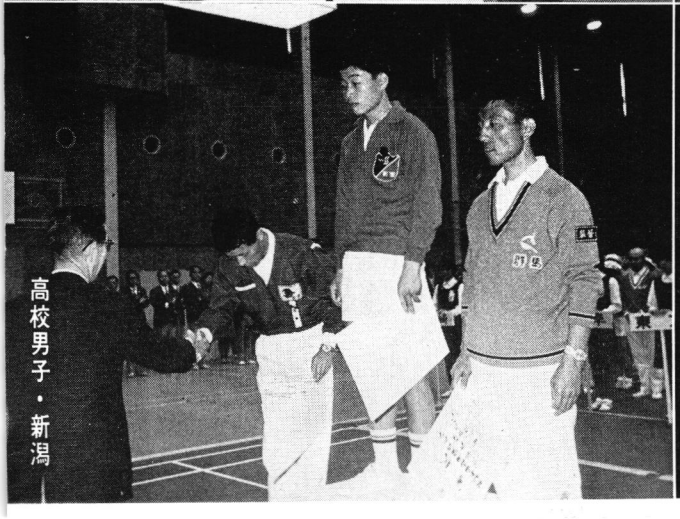
総合優勝・新潟



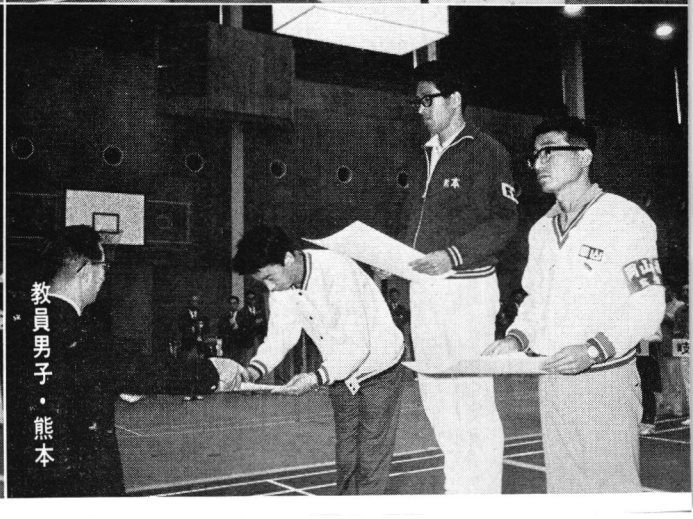
高校女子・大阪



一般女子・岐阜



高校男子・新潟



教員男子・熊本

フットワークの練習法

問い　フットワークについて質問します。われわれは毎日一分半か二分ぐらいずつ、タテ、ヨコに動くフットワークについての練習をやっています。もっと時間を短くして、速くやるべきだと思いますが、どうでしょうか。（**北海道根室高主将・清水鉄志**）

答え　ご質問の意味がはっきりしません。一分半か二分のフットワーク（恐らく、そのトレーニングのことでしょう）もそれを合理的にくり返すのであれば効果をあげるでしょう。

ひと口にフットワークのトレーニングといっても、その方法は多種多様。次のように大別して考えてみることにします。

◆短距離疾走（主として瞬発力を養う）

◆中長距離走（主として持久力を養う）――のように基礎になるものもあれば、

◆前、ヨコ、うしろなどの早い動きを入れて組合わせたトレーニングは、幾分、実際のプレーに近ずいたもの、ということができます。

ここまでのトレーニングはなるべく戸外で行なうことをおすすめします。

◆コートの中にはいって、フライトを想定し、それに応ずるフットワークを練習する方法はどこでもよく行われています。ストロークの動作の途中で既にホームポジションにかえる身体の動きが始まって、打ち終わったときはコート内の基地に身体が戻っているようなフットワークが大切ですから、実際のフライトのやりとりの間に覚えるというのが仕上げになります。

いずれにしても、狙いを明確にし、能率よく練習すること。いきなり激しい動きをして、足や腰を痛める人も多いので、軽いかけ足や、十分の体操などによって発汗したあと主目的のトレーニングにはいることです。

バック上達の早道は

問い　高校生にとってバック・クリヤーやバック・スマッシュはなかなか難しいものです。もちろん、遠くに飛ばすには手首が強くなければいけないと思いますが、なにかコツはないでしょうか。（**前同**）

答え　貴君のいわれるのはハイ・バックハンド・ストロークの意味と思います。

肩よりも高い所でバードをキャッチして、クリヤー、スマッシュ、ドライブを強打するのですが、これはバドミントンの技術の中でも、文章で説明するのが一番、むずかしい点です。

一九五〇年代は、日本ではトップ・クラスの選手でも、バックハンド・ストロークとなるとバードをヒザぐらいの高さまで落して、大きいバック・スイングと、身体と腕を振り回すような（軟庭のバックハンド・ストロークのような）動作で打ち上げる状態でした。

一九六〇年代にはいって、ようやく、フォアハンドと同じように高いところでキャッチしてフォアと逆のスナップをきかせ身体も腕もあまり振り回さないで、強打する方法がとられるようになりました。

われわれはこれを使宜上、ハイ・バックハンドと名付けて今日に及び、ほとんど通用化されています。

手首の返しだけでなく、ヒジから先きの前腕の捻りがポイントになり〝身体のそり〟とうまくタイミングが合う必要があります。上手な人のをくり返し熱心に眺めて、真似るのが早道だと思うほど、理くつだけでは覚えにくいストロークです。

しかし、初めからフォアハンドと同じように取り組めば、決してむずかしいストロークではありません。

〝手首のスナップを主力として打つバックハンド〟と考えて回数をかせぐことが大切です。なんでもかんでも、フォアに回して逃げるプレーヤーを見受けますが、これは決して大成を約束する姿ではありません。

（日バ協会指導委員長・伊藤基記）

編集部から――この欄への質問をどしどし、お寄せ下さい。異色の問題がある場合は、この「質問箱」とは別個に、諸先生方に執筆をご依頼することもあります。質問は技術上のことだけに限りません。





小島選手が痛烈な批判

インカレ最終日（十一月十七日）、やたらと寒い日である。会場もこれまでに三回変わったジプシー大会、選手の気勢もあがらぬというものか――。

男子複で三位決定戦に出場したA選手、肉離れのためキケンするつもりでラケットなど試合用具を持たずに会場入りしたものの他の選手の試合をみているうちにムズムズ、やおらマネジャーに依頼、道具を取り寄せ出場。またB選手は「三位決定戦なんかやらなくても良いのに……。アア疲れた…」などとブツブツ。

これをかたわらで聞いていた日本男子の第一人者、小島一平君が痛烈な批判を加えた。

「学生で最高に権威あるこの大会を何と心得ているのか。三位決定戦をやりたくないなどとはもってのほか。またケガで試合に出れないのならさっさとキケンすべきで、みなもっと真剣な態度で試合に臨まなくてはいけない。ともかく今の現役達はなまいき」と、チクリとひとこと。

《随想》

選手養成に思う

日本のスポーツは学校体育を中心として発展してきているにもかかわらず、その指導体制がない。体育が明治初期に始められて百年たった現在、また六・三・三・四の学制の中にあって教育体育が体系づけられているのに特活クラブや選手養成については何んの組織も指導体制もできていない現状である。

学校スポーツから一歩も出ていない選手養成の選手だからオリンピックで勝てない。社会体育やクラブ制組織の遅延という事もあるが、それにしても余りにも日本古来からの学校スポーツに選手養成を依存し過ぎたところに、大きな欠陥があるものと考える。

今まではただ現場の数少ない指導者が、良心的に奉仕の精神を発揮して、面目を保ってきている。しかし、それにしても、この犠牲がいつまでも続くわけにはいかない。指導者の生活が安定していない限り、充実した指導はできないし、選手の養成は望めない。

日本体育協会も競技力向上委員会のトレーナー育成をこの機会に、文部省と一致協力して社会体育の新機構を図り、今までのおざなり社会体育から早い機会に脱皮しなければならない。社会体育こそ、一般社会人、職場人を対象とした大衆のスポーツ活動である。ここに力を入れない体育政策はあるまい。

体育指導委員をフルに活用しトレーナーの活動範囲を広めた指導管理体制を作り、学校や公共の体育スポーツ施設を放課後や日祭日に開放すれば、練習場や練習時間は確保できる。老若男女をとわず、スポーツを楽しみ、生活の中にスポーツがあり、国民生活に結びついたスポーツ競技の底辺拡大も、スポーツ人口も一挙に向上されよう。

また、大切なのは、クラブ制の確立である。数少ないが水泳にみられるスポンサーによるのも大変よかろう。各都道府県、各市町村に各競技種目団体でもって、特殊事情を考えクラブ制の組織を作り、トレーナー、コーチの徹底した指導を行ない選手の育成を図る。ここで伸びた選手を全国から集めてナショナル・チームなり選手団を編成し専任コーチがより徹底した一貫性のある指導をして国際級の選手に養成する。

これらは、国立の施設を使用し、全部国費で身分の保障も考える選手政策を打出してもよかろう。また学校スポーツは一般児童、生徒の体力づくりと各スポーツの一貫した基礎技術と知識の指導を体育教師が行ない、実践スポーツの思想をたたきこみ、体力増進とスポーツ拡大につとめる。現在の一部選手による独占をさけ、学校体育と運動選手の欠陥もなくなろう。

いづれにしても日本のスポーツは、プロとの関係もあるが、この三つの柱が確立し、全国の津々浦々まで国民に土着したとき、始めてスポーツ日本、スポーツ世界一が誕生し、選手養成で四苦八苦もなくなり、オリンピックにも勝てよう。（全国高体連バドミントン副部長・遠井稔男）





読切連載
【第3回】

三度目の韓国コーチへ
"バドの虫"になりきって

株式会社板垣商店社長
立大OB
板垣隆房

若い私が山形県の理事長をつとめること自体、潜越だと思うし、地元の山形の強化も中途半ぱで韓国へコーチに行くこともおかしな話なのである。

ことしもまたソウルへ呼ばれた。三度目である。

韓国の選手は行くたびごとに強くなってきている。

山形は雪が深い。隣りの秋田も同様だが、雪国のために室内競技は比較的強い——とされている。

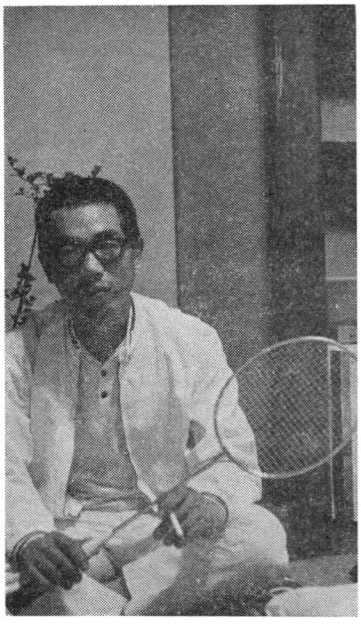
しかし練習はできるものの試合をやることがどうしても不足しがちである。加えて室内の練習はいいが、雪に閉ざされると屋外でランニングをやる期間がどうしても少くなってしまう。こうしたことどもの解決、つまりランニングに代わる練習方法を早く見つけ出し、うまく強化にかみ合わせることが肝心だとも思う。

私は「スポーツはやることに意義があり、勝負は二の次」と根本的に考えるけれども、競技である以上、やる以上はやっぱり勝ちたい——と思う。

私がラケットを持つ時、知人や友人は「バドミントンの虫」だと評するが、私はこれ以上、私にとってうれしい形容詞はないと感謝している。

またソウルへ行く。どんなに選手たちが成長しているかも知れないと考える時、やはり、私は「バドミントンの虫」だと思う。

またそれでいいのではあるまいか。第一、私はいまなお、バドミントンをやったことを、ほんとうに幸せだと感じているのだ。



昭和四十二年だった。

「若い自分なんかに…」と一度はお断わりしようと思ったが協会の指導委員に選ばれてしまった。

とてもつとまる大役ではないのにと思っていたら、こんどはソウルへ行って「韓国の選手強化をやれ」といわれて二度びっくりしてしまった。

その年の暮、私はソウルへ飛んだ。なにひとつやれない選手たちの手をとって教え込むことは、かなり辛い作業であった。

なにしろ競技場ひとつ満足にないところである。仕方がないから、毎日ランニングばかりやらせていた。そうしたら李英信（近畿大）が東京で行われた国際学生選手権で三位入賞した。

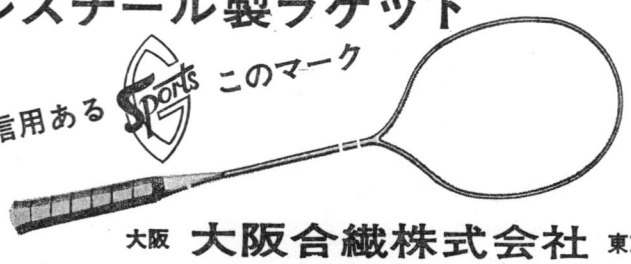
たしか九カ国が参加した大会である。

その翌年にまた「ソウルへ来い」といわれた。選手たちが徐々に向上して行ってくれていることがわかり始めると、無性に「強くさせてやりたい」という気持が高まり、私自身として充実している毎日だった。

バドミントン競技について、私としては「登山家が、そこに山があるから登るんだというなら、そこにバドミントンがあるからやるんだ」という以外、ほかの何の理由も見当らない。

私の現役時代、立教大の現役当時に、インター・カレッジで四連勝をしたことぐらいが記憶に残っている。またことしの長崎国体を入れて、十回連続して国体出場を果たしたということぐらいだろう。

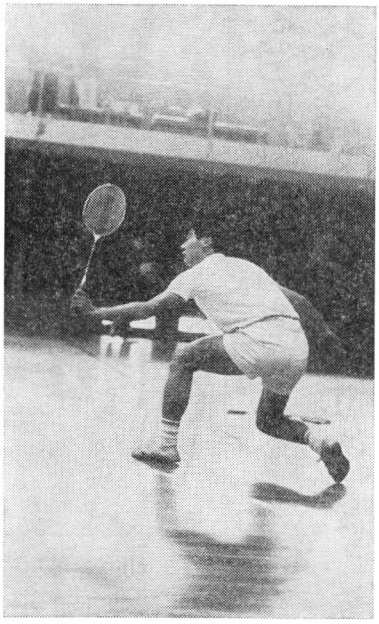
とはいえ、僕もアマチュアである。人は「八百屋のタカちゃん」と呼ぶが、青果商をやりながらのバドミントンである。

日本で最初のオールスチール製ラケット
信用あるSports このマーク

大阪 大阪合繊株式会社 東京

ヒーロー

抜群の〝正調〟青年

全日本学生に優勝した　本間順次君（中大）



――優勝お目出とう。優勝候補の筆頭にあげられていたのでいろいろと気苦労もあったろうし。

『体力的にはとても自信があったのですけど。インカレ前にリーグ戦など試合が重なったので集中力が欠けることを一番恐れました』

――足を引きずっているようだね。

『チョット足をひねって…。気のゆるみからなんです。反省しています』

――団体戦では準決勝の法大戦がヤマだったと思うけど、当った感じは？

『何か法政にはアセリといったムードが感じられました。勝たなくてはいけないといったような。その点、自分達はのびのびとプレーできたので…。でも来年は逆に自分達が追われる立場になるので、その点気を引き締めてかからなければと思っています。他人事ではありませんネ』

と、もう来年のことを考えているあたり見上げた心掛け。

インタビュー最中にもほかの試合のタマを懸命に目で追う。本当に〝バドミントンの虫〟。こんな点を大学の先輩、小島一平君はこう評する。

『天分もあるし、努力家ですヨ。特に気にいっているのは、〝バドミントン〟に対する姿勢が非常に真面目なところですネ。もちろん私生活もまじめ、コートにはいるとまるで人が変わったようになるんです。厳しい側面があるんですネ。今や第一線のスタープレーヤーで人気もあるけれど、それにおぼれるようなうわついた点はありません』

〝バドミントン〟に取り組む姿勢では誉れの高い小島君が手放しでほめるのだから、おのずと本間君の人柄が浮き彫りされようというもの。

信条を聞くとこんな答が返ってきた。

『まず選手である前に学生であるということ。勉強でも人にうしろ指を示されないように、バドミントンだけ、という片寄った人間にはなりたくない。将来のことも考え、競技と勉学を両立させていく努力をしています』

――君の今日あるのは

『中学時代、おじがバドミントンをやっていたので僕も自然に…高校時代は精神面、大学にはいってからはプラス技術面で仕込まれました。良い先輩にめぐまれて…。今後もどしどし先輩の良い点を自分のものとして吸収していきたいと思っています』

――トマス杯への抱負を

『代表選手であるという立場を自覚して、自分の持てる全てを出し切ろうと思います』

と、キッパリ。

――趣味は

『これといってないんですけど、僕、どっちかというとロマンチストなんですネ、だから、レコード…そうチョッとしたスケッチを画くことなんか』

――最後に、あなた好みのガール・フレンドは

「ノー・コメントです」

――うわさを聞くけど

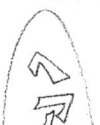
「かんべんしてくださいよ、それだけは…」

必死になるところ、目下、進行中と見た。

さわやかな青年である。

（秦　浩）

□□□□



ブルー・ライト・ヨコハマ

全日本学生選手権は、会場は三つに分散したが、宿泊は一カ所という珍らしいケース。

というのは、宿舎が横浜湾の氷川丸。それだけにさまざまなエピソードも生まれた。

戦いすんで日がくれて、港に灯りがともるころ、センチなひとみで夜霧をみつめる乙女があちこち。まさに〝ブルー・ライト・ヨコハマ〟だなあ。

こんなロマンチックな話ならいいのだが、朝がすさまじい。「全国学生バドミントン大会ご宿泊ご一行さま、お食事の用意が…」マイクでがなりたてるのが朝の七時十五分。この珍妙なアナウンスを一週間。

男子用のフロは25メートルのプールを半分にしたような広さ平泳ぎで三カキできるが、宿屋側もさるもの、立て札あり「飛び込み禁止」。

門限は夜十時。しかし、あまりよく守られず「最後まで一度も時間内に帰らない」ものもいたらしい。さて十六日は佐藤首相訪米前夜。山下公園を、なにやらのビンをぶらさげて歩いてきた某君、火焔ビンとまちがえられ「オイ、コラ」。

■職場訪問■　≪東京警視庁≫

機動隊から女子職員まで

悩みは練習と会場難

十月十八日土曜日。その日は過激派学生による首相官邸、自民党本部の襲撃事件があり、永田町周辺は、物々しい警戒ぶりだった。

出動服に身を固め、ジュラルミンの盾を光らせた機動隊員に守られた自民党本部、それと、道一つへだてて向いあう永田町小学校、これが目ざす警視庁バドミントン・クラブのホーム・グラウンドだ。

ひょっとすると練習中止では？と、不安に駆られながらも体育館をのぞくと「やあ、お待ちしていました」と、クラブの責任者・荒井義男さん（警視庁技師・33歳）が、にこやかに迎えてくれ、ひと安心。

体育館は狭い。コートを二面とるのがようやっと。天井も低い。ハイ・クリヤーは厳禁、シャトルが、すぐ、鉄骨に乗ってしまうからだ。だが、ダブルスに興じ、乱打に汗を流すクラブ員は、実に楽しそう。互いに審判となり、選手となり、コーチにも早替りする。いかにも〝同好会〟らしいなごやかな練習風景だ。

クラブを作った動機を荒井さんに聞いた。

「それが、ヒョンなことからできたんです。たしか四十一年の春でした。たまたま千代田区の大会があったので申し込むと六人いれば、チームとして登録できるといわれたんです。それじゃ、というので六人集めて登録した」のが始まりだそうだ。

ところが、その緒戦で、無残な大敗を喫してしまった。そこで「これではならじ、と、庁内から広く部員を募集した」のが現在のクラブ。禍い転じて福となり、今では、女性六人を含む五十人のクラブに発展、昨春からは、八部ながら東京都実業団リーグにも出場している。

クラブが形を整え、大きくなれば、悩みも大きくなる。その一つはメンバーが全員そろって練習できないこと。会員はやはり一般職（技術、事務系）が圧倒的に多く、現場の警官は十人ほど。

それでも、常時練習に出られるのは十五、六人だという。この日も女子四人、男子六人の十人だった。そこで「半年に一度位、体育館を借りて、全員そろっての練習」を計画中とのことぜひ、実現してもらいたいものだ。

さらに大きな悩みは練習場がないこと。永田町小学校がホーム・グラウンドといっても、千代田区協会の主催する練習会に参加しているだけ。あとは、他区の同じような練習会に特別参加？している。このため、練習はうまくいって週二日、普通は土曜の夜一回だけとなる。

「月始めに、各区の練習会予定を調べることが、私の重要な仕事」と、荒井さんは笑っていたが、このワンダーフォーゲル（渡り鳥）的練習は、当分続きそうだ。

会費は月額百円と安い。しかもメンバーが都内各所に分かれているため、徴集も大変だが、赤字をやりくりして一生けんめい。来年からは二百円に、との声もある。

「ウチは好きなものが集まってレクリェーションでやっているんだからそれでいいんです」と荒井さんはいい、それを裏書きして、この九月入会した大桃啓子さんは「バドミントンは初めてですが、とてもおもしろい。練習していると精神的にも、肉体的にも最高に調子がいい」と目を輝かせる。

第四機動隊に所属する〝現職警官の松本茂之さんも「非番のときしかできないのが残念ですが、練習のときは、眠気も疲れも吹き飛びます」と、クラブを礼讃している。

会員のほとんどが、ラケットを握るのが初めてという警視庁クラブ。〝売り物〟は互いに教え、学びあうちにかもしだせる〝家族的な雰囲気〟と見た。

（時事通信・沼館義明）



▲50人のクラブ員が一堂に会することはほとんどないが，助け合い励し合って選手は今日も汗を流す

科学的にみたバドミントンの魅力（下）

投手より〝重労働〟高度な反射神経も

読売新聞　小林範夫

時速256キロから0キロ（水平の動き）まで――バドミントンのシャトルが、速いときはスポーツの打球の中で一番速く、おそいときは、あらゆる打球の中で最もおそくなることは前号で書きました。驚くべきスピードの変化――ということは、裏を返せば、そのシャトルを追うプレーヤーの運動神経もまた、他のスポーツには見られないほど変化に富んだものでなくてはならない、といえるでしょう。

シャトルを打った体勢を立て直すひまもなく打ち返されるリターン。事実、プレーヤーの動きは反射神経そのものといっていいほどめまぐるしい。テニスなどにくらべ、コートが極端に小さいのだからこれは当然のことかもしれません。こういういい方をすると、「それでは卓球の方がより高度の反射神経を使うのではないか」という疑問が生じるでしょう。だが、卓球の場合はちょっと事情が違います。

人間が打球の性質を目で見きわめてから動作を行なうまでの時間は約0・3秒。卓球の場合はあまりにもコートが小さいので目で追える限界を越えてしまうのです。では、卓球の選手は何を頼りにタマを打っているかというと、意外なことに耳（タマが相手のラケットやコートにぶつかる音）とタマが自分のラケットに当たったときの筋肉の感覚が大きくものをいっています。

卓球の場合、目は全体の動きを追い、相手の動作を見て、こまかい作戦を立てるという、高度の役目を果たしているのです。卓球のベテランが目かくしをしたまま何回もラリーを続けている光景をテレビやニュース映画で見たことがあるでしょう。あの秘密は実はここにあるのです。

だから卓球を別格にすれば、ボール・ゲームの中でバドミントンは最もきびしい反射神経を必要としたスポーツといえそうです。

もう一つ、プレーヤーにとってやっかいなことは、シャトルがきわめて遅くなるため、逆に目でとらえてから動作をするまでの間に「無駄時間（DEAD TIME）」があることです。よく試合で、ライン上にあがったハイクリヤーがあまりにもゆっくり降りてくるので「アウトかインか」の判断をしかねて、結局は打てずに終ってしまうか、打っても平凡なタマしか打てないという光景を見るでしょう。

「刺激があってから動き出すまでの間（無駄時間）が長いと、動作が不安定になる」ということを運動力学や運動心理の専門家は「信号と動作の乱調」といっています。このことは他のスポーツでも見られますがバドミントンほど顕著ではないでしょう。シャトルの特性がバドミントンをより面白くしている好例です。

バドミントンは、このように極めてデリケートである反面、相当程度に激しいスポーツでもあります。ある運動がどの程度激しいかを決めるのに〝エネルギー代謝率〟で測定する方法があります。安静にしているときを規準にして、運動をしたときの酸素消費量から数字を割り出したもので、そのおもなものは別表のとおりです。バドミントンはさすがにテニスには及びませんが、男子の場合、野球の投手より激しいスポーツであることがこれでおわかりでしょう。

女子の一流選手の場合、たとえばユーバー杯代表の高木紀子（東海女短大教員）や高橋とも子（北辰電機）選手などでも、巨人軍の堀内、高橋一、阪神の江夏投手らと同程度の激しい動きをしているわけです。野球の投手の例でピンとこなかったら、三十キロのリックサックを背負って傾斜五度の山道を登る苦しみを想像してみて下さい。女子の羽根つきと一部で誤解されているバドミントンは実はこれほど激しいスポーツなのです。

さて、前号から二回にわたってシャトルのスピード、エネルギー、選手の運動神経と体力、といった点からバドミントンの魅力を解剖してみました。「今までばくぜんと〝面白い〟と感じていた理由がわかった」という人がいたら幸いです。そこまでいかなくても、日本のバドミントンが単なる社交的な遊戯とは全く異なったものであることだけはわかっていただけたと思います。

おもなスポーツの
エネルギー代謝率

歩行	（毎分 80m）	3.2
	（毎分 100m）	5.0
野球	（投手）	5.8
	（捕手）	4.6
サッカー	（チーム平均）	6.4
バドミントン	（男子単）	6.6
	（男子複）	5.3
	（女子単）	4.3～6.0
	（女子複）	3.0～4.0
テニス	（男子単）	10.9
	（男子複）	7.7
	（女子単）	8.6
	（女子複）	7.7
マラソン		15.6

◆スポーツマンと食生活◆

〝一流〟への道、まず栄養

報知新聞
吉広紀代子

一九六四年の東京オリンピック大会選手村。ありとあらゆる国の選手が集まった村で一番驚いたことは聞きしにまさる外国選手の食欲であった。

二百㌔近いプロ・レスラーが一日に牛肉を何㌔、鶏を何羽、卵を何ダース、牛乳を何リットルというまことしやかな話は聞いたことはある。だが、特異体質ではない、陸上や球技の一見ほっそりとしたヘルメス体型の選手たちが、朝に昼に夜にもりもりと食べるのである。

大きい食物の差

そんな状況の中で日本選手はどうだったか。各国のさまざまな料理がそろえられている前で、試合を控えるとやはり握り飯にうどん、ソバ、漬け物が離せなかったようだ。こういう風景を目の当たりに見て、迎えた外国選手対日本選手の競技での対決。そして一番印象に残ったのはヤング・パワーに象徴されるアメリカ水泳の圧勝だった。技術よりも体力が違う――食べ物が違うということを見せつけられたような気がした。

科学的に考えればスポーツ選手にとってトレーニングと栄養は車の両輪であることは明らかだ。しかし子供の時から米食に偏り腹一杯食べる習慣を持つ日本人がスポーツ選手になってから急に食生活を改善できるとは限らない。内臓機能の問題もあるし、この物価高の生活ではビフテキを食べたいと思っても経済的理由でハンバーグしか食べられないことも後々ある。

だが、やはり一流の選手をめざすならトレーニングと同様に体力養成も絶対条件である。毎日の通勤量を考え、食事が適当であるかどうか考えてみる。つまり糖質、脂肪、蛋白質の摂取割合を吟味する。

競技の特性を考えて

バドミントンのように敏捷性、筋力、持久力を必要とするスポーツは肉類、野菜、果実が中心の食事が望ましいことは「スポーツと疲労と栄養」（大修館発行）にも明記されている。またこの他に考えなければならないのは練習時と試合時への配慮だろう。

筋力をつける蛋白質は練習時に多くとり、特に長期計画練習のはじめは大切。また夏の試合ではビタミン類、無機塩類、水分の補給、そのほか練習、試合前は消化のよい食品を選ぶことなど。これまで私が接した選手たち、一流といわれる人はやはりこのような基本で食生活を実行していたことをたびたび見かけた。

身近な例として、バドミントンの〝小さなチャンピオン〟小島一平選手に聞いてみた。1㍍60、60㌔という小柄にしてはスタミナを誇り外国遠征ではゴーゴー・ダンスでも外国選手に決して体力負けしないという一平選手。

小島君の場合は

「三年前、サラリーマンになってからは大いばりでお袋に特注している」とのこと。朝は牛乳、卵、野菜。昼は外食、ただし好き嫌いなしに何でも食べるそうだ。夜は豚肉が多いという。二百㌔ぐらいのを二枚食べることもある。夏でも冬でも香辛料をたっぷり使って焼き肉にするという。生野菜もバリバリ食べる。大試合前は一カ月位前から肉の量を増やすという。

〝どんぶり飯〟では…

「今から考えれば学生時代は無茶な食生活だった。合宿中なんかは朝から〝どんぶり飯〟。飯だけは十分あったから夕食には四―五杯つめ込んだ。だが飯ではやっぱりお腹がすく。夕食前の練習中はショート・パンツのポケットにアンパンをねじ込んでラケットを握った。

だがもう合宿をしても朝から〝どんぶり飯〟は食べられない。学生時代は経済的事情で無理だったが。以前から現在のような食生活をしていたら…」といっていた。



≫日本人医師が協力≪

トマレ保持国マレーシアの選手強化

☆☆☆〈海外の話題〉☆☆☆

☆☆☆〈海外の話題〉☆☆☆

☆☆☆〈海外の話題〉☆☆☆

☆☆☆〈海外の話題〉☆☆☆

☆☆☆〈海外の話題〉☆☆☆

前書きが長くなりましたが—最近の外電によるとマレーシアに四人の強力な〝助ッ人〟がいることがわかりました。

その四人がそろって日本人だというのですから「ユーバー杯に続きトマス杯も」と意気込んで、期待している私たちが〝オヤッ〟と思うのも無理のないところです。

四人の助ッ人とは——日本から東南アジア各地に送っている通称〝平和部隊〟の医師なのです。

四人ともその道にかけてはエキスパート、同国はこの人たちの力を借りて、トマ杯の決勝当日に、選手団をトップ・コンディションに持って行こう、というわけです。

マレーシアに四人の〝助ッ人〟

以下の話は〝敵を知る〟ためのひとつの手がかりになると思います。

また第八回世界バドミントン選手権（トマス杯）のお話しで恐縮です。でも今回はゾーン予選や決定戦から離れ、選手権保持国マレーシアの選手強化計画などを、お伝えしましょう。

マレーシアがトマス杯にどのくらい執念を燃やしているかがよくわかります。日本代表選手団も負けずに張り切っていますが、むかしから「敵を知り、己を知るは百戦あやうからず」といわれる通り。

四人の名はジロー・コーノ、タダミチ・アタカ、ノリオ・サイトウ、ケンジロー・タダノ（日本文字は不明）です。

マレーシアのトレーニング責任者、V・ガネシャン博士は、「彼らの助力でベスト・コンディションに出来る」といっています。四人の活動は、すでに十月中旬から始まっています。

タン三兄弟ら強化選手も決定

また、同国はすでに十五人の第一次強化選手団を発表しました。

その中には国内選手権保持者の〝パンチ〟・グラナンと、ダブルスのパートナー、ユー・チェン・ホーや、タン・アイク・モン、タン・イ・カン、ウン・ブン・ビーと同国の誇る一線級が指名されています。

選手権保持にかける意欲は旺盛。日本人医師団が〝トレーニング・ドクター〟として、どんな活動をし、マレーシア選手団の体調管理に、どんな影響を与えるか、注目したいものです。

（共同通信・竹市幸男）



早わかり競技規則
ルール100問？

連載②

問7　国際規則が変れば、日本の競技規則も直ぐ変えるんですね。

答　そうですね。なるべく早く変えないと、直ぐ国際試合があったときなど、困る場合も出て来ます。けれども、日本バドミントン協会として、その変更が重要なものであれば、総会にかけ、よく説明し、全国のプレーヤーがこれに馴れる期間をおいて、実施の時期を定めます。日本バドミントン協会の総会は毎年一月ですが、大てい十月頃に臨時総会を開きます。国民体育大会の秋季大会の頃ですね。七月のＩＢＦの総会できまったことを、十月には、日本でも審議できるわけです。

問8　この競技規則があればどんな大会や試合でも開催できるんですか。

答　いいえ。別に「大会運営規定」というものであって、審判員を含む役員のことや、会場その他について、いろいろのことが定められています。大会や試合は、この大会運営規定と競技規則の両方によって行なわれます。また、実際の審判の方法については。国際的な申し合わせもあります。これは「審判員心得」と呼ばれています。日本バドミントン協会は、これに基づいて、主審のコールなどを定めています。大会運営規定については、本書の第Ⅱ編で詳しく説明いたしましょう。また審判法に関しては、第Ⅲ編で、お話できることと考えております。

問9　コートの寸法ですが、一・九八とか〇・四六とか、数字に半端があるのはどうしてですか。何だか覚えにくくて困るんですか。

答　バドミントンはインドのプーナ（ＰＯＯＮＡ）地方で行なわれていた「プーナ」という遊びが、一八七三年頃、インドに駐在していた英国陸軍士官達によって本国に伝えられ、グロスターシャ県（ＧＬＯＵＣＥＳＴＥＲＳＨＩＲＥ）にあったボーフォート領主（ＤＵＫＥ　ＯＦ　ＢＥＡＵＦＯＲＴ）の所領バドミントン付近で盛んにプレーされ、それがこのゲームの名称の由来となったといわれますが、その後長く英国で育て上げられたためラインの長さも「フィート制」で定められました。ですから、フィートで計れば、四四フィートとか六フィート二分の一というぐあいに、比較的覚えやすい数字が出て来ます。ところが、ＩＢＦの総会では、昭和三十二年、メートル法を併用することを議決しました。フィートをメートルに換算すると数字の上では、小数点以下何位までも細かく計算されますが、実際には不必要なので、大体小数点以下二位くらいで打ち切りしかも一つのラインの各部分の合計が全長にちゃんと合うように調整し、これを正式の寸法ときめてあります。わが国はメートル法が立て前ですから、ぜひメートルで計りたいものです。これは一々覚えるよりも、コートを新しく描くときには、やはり規則書を片手に、間違いなくやるべきでしょう。もっと大切なことは、どれくらいの会場はコートが何面とれるかとか、コートの周りは何メートルくらい空いていなくてはならないかというようなことです。これは第Ⅱ編の大会運営規定のところでお話ししましょう。

問10　コートの対角線の距離がきめてあるのは何のためですか。

答　これは、メートル法の併用がきまったとき同時に定められたものですが、コートの四つのコーナーが直角であることを念のため申し添えた程度のことと考えています。ピタゴラスの定理ですね。描き上げたコートの四隅が直角になっているかどうか点検するのにも役立ちそうですが、実際はそんな方法では細かい誤差はわからないでしょう。床板の継ぎ目を利用したり壁からの距離を計ってラインの位置をきめた方がはるかに実際的です。以前の競技規則では各ラインの長さだけきめてあったのですから、平行四辺形のコートでも規則上正しいといえないこともなかったわけです。しかし、実際は、前々から正しい長方形のコートでやっていましたよ。

問11　ラインの幅は三・八㌢となっていますが、これはコートの外側へとるのですか、それとも内側ですか。

答　内側です。例えば、コートの縦の長さ、つまりサイド・ラインの長さは一三・四㍍ですね。すると、バック・バウンダリー・ラインは一三・四㍍より内側（ネットの方）へ三・八㌢の幅をとることになります。いいかえれば、一方のバック・バウンダリー・ラインの外側から反対側のバック・バウンダリーラインの外側までが一三・四㍍とならなければなりません。すべてのラインは、計ったところから、ネットの中央へ向って幅を取るのですが、ただ一つ、ショート・サービス・ラインだけは、ネットの反対方向へ幅を取ります。それは、このラインがサービス・コートをつくるためのもので、サービス・コートはショート・サービス・ラインから見て、ネットの反対側にあるからです。また、センター・ラインの幅も、他のラインと同じく、三・八㌢ですが、これは左右のサービス・コートに半分ずつ分割されるので、センター・ラインの中心線がダブルスのサイド・ラインの外側から三・〇五㍍のところになるわけです。

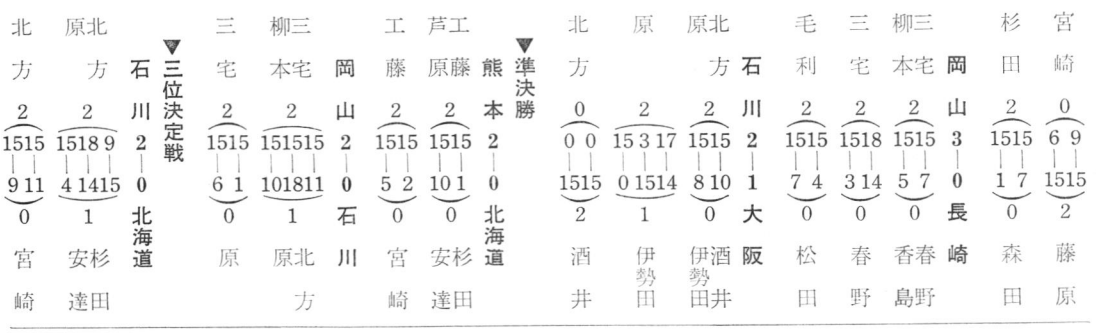
◇第二十四回国体

●高校男子

▼一回戦

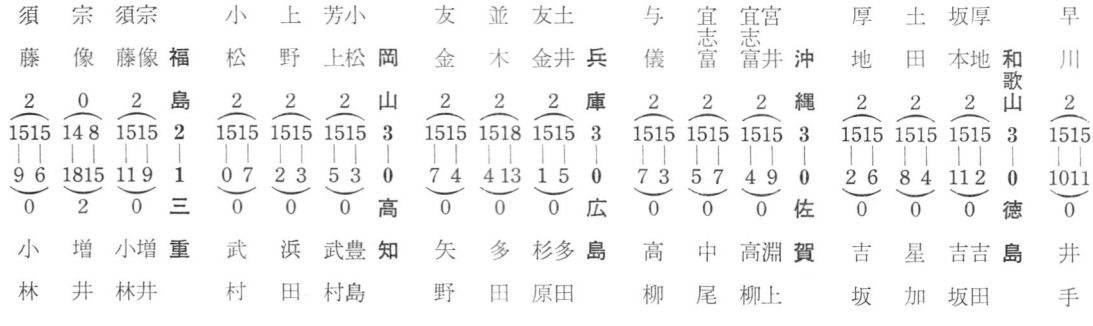
| | | |

RECORD









RECORD

大石	平野	平野	日下部	静岡
2	2	2	2	3
1515	1515	1518	1515	0
5				
7 4 15	3 1	1015	1 5 15	0 3
1	0	0	0	0
秋山	銘苅	元重	秋山	岡福

岡崎	吉川	吉川部	阿香	川
1	2	2	2	2
5 15 4	1515	151513	1515	1
9	9			
15 4 15	1 6 15	8 9 15	2 0	1 1
2	1	1	0	0
岩川	末広	河末	口添	山広

遠藤	加藤	遠久保藤川	大阪	3
2	2	2	2	
1515	1515	1515	1515	
1 1	4 0	0	3 4	
0	0	0	0	
小倉	徳永	徳松本	崎宮	

金原	吉田	伊金藤原	岩手	3
2	2	2	2	
1515	1518	1515	1515	
3 4	1116	8 12	0	
0	0	0	0	
福井	高木	竹高山木	都京	

北見	森澄	森澄東	千葉	3
2	2	2		
151512	1515	1515		
0 5 15	0 3	7 2		
1	0	0		
加藤	小松	加吉藤川	取鳥	

上原	安藤	安上藤原	岐阜	3
2	2	2		
(キケン)	1515	1515		
	12 5	1111		
0	0	0		
稲村	浅野	鈴木村	馬群	

今野	市川	市古川橋	宮城	3
2	2	2		
1515 5	1515	1515		
10 6 15	9 9	5 6		
1	0	0		
西原	西川	西原川	賀滋	

宮原	春歩	宮佐原藤	大分	2
2	0	2		
1515	6 5	151512		
4 7	1515	9 2 15		
0	2	1		
笠川	寺崎	府寺岡崎	井	

秋山	野田	秋窪山田	▼二回戦 山梨	3
2	2	2		
1515	1515	1515		
0 0	0 0	2 6		
0	0	0		
小山内	福井	福小山井内	森青	

西野	河村	河野村村	奈良	2
0	2	2		
5 2	151510	1515		
1515	7 1 15	8 9		
2	1	0		
原田	伊藤	原伊田藤	野長	

上野	松浦	西堺野	東京	2
2	0	2		
1515	8 2	1515		
1111	1515	4 6		
0	2	0		
小松	上野	芳上	山岡	

安沢	武田	通安口沢	愛知	3
2	2	2		
1515	1515	1515		
1112	6 9	0 4		
0	0	0		
友金	並木	土井	庫兵	

与儀	宜志富	宜志富	宮井	沖縄	2
0	2	2			
0 0	1515	1515			
1515	3 1	8 12			
2	0	0			
谷畑	霜山	谷柳畑沢	木栃		

沼沢	安達	沼郷沢野	山形	2
2	0	2		
1515	1415	1515		
1 11	1717	3 4		
0	2	0		
厚地	土田	坂厚本地	和歌山	

伊藤	捧	2	1
2			
1515	7 1515		
4 6	151810		
0	2		
佐藤	早川		

大藤竹	新潟	2
2		
15 7 15		
6 15 9		
1		
早福田	城茨	

高林	関河村村	富山	3
2	2		
181512	1515		
15 9 15	11 2		
1	0		
吉川	吉阿川部	香川	

中山	星野	星森野谷	埼玉	2
0	2	2		
1011	151315	151516		
1515	5 15 5	2 5 18		
2	1	1		
遠藤	加藤	遠久保藤川	阪大	

松下	黒田	黒松田下	石川	2
2	2	1		
1515	1515	9 1415		
3 3	5 11	151712		
0	0	2		
金原	吉田	伊金藤原	手	

山口	前田	松山野口	長崎	3
2	2	2		
1515	1515 6	1515		
3 10	12 2 15	8 3		
0	1	0		
周東	森澄	森周澄東	葉千	

岩崎	土江田	中岩村崎	北海道	3
2	2	2		
1515	1515	1515		
1013	1 2	12 3		
0	0	0		
宗像	菊地	須宗藤像	島福	

伊藤	大伊藤竹	新潟	2
2	2		
1515	1515		
5 7	12 5		
0	0		
安達	沼郷沢野	形山	

安藤	安上藤原	岐阜	2
2	2		
1515	181115		
1 7	1615 8		
0	1		
今野	市古川橋	城宮	

窪田	秋窪山田	▼三回戦 山梨	2
2	2		
1515	1515		
1010	3 0		
0	0		
春武	宮佐原藤	分大	

坂本	小島	坂小本島	神奈川	3
2	2	2		
1515	1515	1515		
2 3	4 3	5 1		
0	0	0		
野村	河村	河野村村	良奈	

三国屋	菅	菅三国屋	秋田	2
1	2	2		
9 15 4	1515 4	151515		
15 6 11	3 1015	9 17 4		
2	1	1		
日下部	平野	平日下野部	岡静	

関村	2
1515	
0 1	
0	
阿部	

安沢 樋口 2(1515—15 0) 0 宮井 宜志富
西堺 野野 2(1515—31 0) 0 土江田
樋口 2(1515—73 0) 0 宮井
黒松 田下 2(1515—113 0) 0 松山 野口
河関 村村 2(1515—69 0) 0 森谷 星野
高 林 2(1515—101215 1) 星野
関河 村村 2(1515—69 0) 0 森谷 星野
黒 田 2(1515—35 0) 0 山口
松黒 下田 2(1515—113 0) 0 山口 松野
西堺 野野 2(1515—31 0) 0 土江田
堺西 野野 2(1515—64 0) 0 岩崎 中村
樋 口 2(1515—73 0) 0 井 宮
安樋 沢口 2(1515—15 0) 0 井 宮 宜志富

愛知 2—0 沖縄
石川 2—0 長崎
東京 2—0 北海道
富山 2—0 埼玉
神奈川 2—0 秋田
山梨 2—0 岐阜

▼準々決勝

野田 2(1515—44 0) 奥田
窪田 秋山 2(1515—53 0) 上原 安藤
小坂 本島 2(1515—83 0) 三国屋 菅
渡辺 2(1515—133 0) 菅

伊藤 2(1515—59 0) 0 安沢
大伊 竹藤 2(1515—49 0) 0 樋口 安沢
西堺 野野 2(1515—10 0) 0 安江
西堺 野野 2(1515—114 0) 0 黒松 田下
小坂 島本 2(1515—34 0) 0 高林
小坂 本島 2(1515—67 0) 0 関河 村村

新潟 2—0 愛知
東京 2—0 石川
神奈川 2—0 富山

▼準決勝

西野 2(151417—61716 1)
西堺 野野 2(1515—512 0) 0 伊藤 大竹
小坂 島本 2(1515—512 0) 堺
小坂 本島 2(1515—89 0) 西野
秋山 2(1515—60 0) 棒
窪田 山田 2(1518—513 0) 伊藤 大竹

東京 2—0 新潟
神奈川 2—0 東京
山梨 2—0 新潟

▼三位決定戦

▼決勝

秋山 2(1515—012 0) 坂本
野田 1(9151—1592 15) 小島
窪田 秋山 2(1515—118 0) 小島 坂本

山梨 2—1 神奈川

◆第14回東海実業団選手権大会（11月3日、富士鉄名古屋）

▼男子団体一回戦　本州製紙富士（静岡）5—0住友化学、八州商事（愛知）5—0神鋼電機B（三重）、豊田工機（愛知）4—1富士電機（三重）、三菱重工名古屋（愛知）3—2神鋼電機A（三重）

▼同二回戦　トヨタ自動車5—0八州商事、三菱油化四日市（三重）4—1本州製紙富士、富士鉄名古屋（愛知）3—2豊田工機（愛知）、三菱重工名古屋3—2名古屋鉄道

▼同準決勝　トヨタ自動車3—0三菱油化四日市、富士鉄名古屋3—0三菱重工名古屋

▼同決勝　トヨタ自動車3—0富士鉄名古屋　▼同三位決定戦　三菱重工3—1三菱油化

▼女子団体一回戦　東亜紡織泊（三重）3—0豊田紡織（愛知）

▼同二回戦　トヨタ自動車B2—0豊田自動織機、トヨタ自動車A2—1名古屋鉄道

▼同決勝　トヨタ自動車B2—0トヨタ自動車A　▼同三位決定戦　豊田自動織機2—1名古屋鉄道

◆全道大学・学生選手権秋季リーグ（10月10日—12日、北海道大体育館）

▼男子団体（ブロック予選のあと三校決勝リーグ）北海道学園大3—0北大、北大3—0北星大、学園3—0北星＝学園は四年ぶりの優勝

▼女子団体（参加3校）北海道女短大3—1静修女短大、札幌教育大3—2静修、教大3—2道女＝札幌教大は11連勝

▼男子単準々決勝＝高野（北大）2—0葛西（学園）、小野（北大）2—0福士（北大）、遠藤（学園）2—1布川（北大）、荏原（学園）2—0野川（北大）▼準決勝＝高野2—0小野、荏原2—0遠藤　▼決勝＝高野2（15—12、15—6）0荏原

▼男子複準決勝＝荏原・葛西（学園）2—1西岡・小見淵（札商大）、出間・遠藤（学園）2—0高野・布川（北大）▼決勝＝荏原・葛西2（15—4、15—7）0出間・遠藤

▼女子単準決勝＝氏家（北星）2—0広瀬（武蔵女子）、田村（静修）2—0平（北星）▼決勝＝田村2（11—4、11—2）氏家

▼女子複準決勝＝氏家・平（北星）2—0小西・能登屋（札教）、及川・磯野（道短）2—0吉田・中島（札教）▼決勝＝及川・礎野2（2—15、17—16、15—12）1氏家・平

◆第16回東北学生選手権大会（11月1日、仙台・東北工大）

▼男子団体一回戦　東北工大3—1東北福祉大、秋田大3—2宮城教育大

▼同二回戦　東北学院3—0山形大、東北工大3—1福島大、秋田大3—2東北大、岩手大3—0日大工学部

▼同準決勝　東北学院3—0東北工大、岩手大3—2秋田大

▼同決勝　東北学院3―0岩手大　▼同三位決定戦　秋田大3―2東北工大

▼女子団体一回戦　山形大3―0宮城教育大、宮城学院3―0秋田大、福島大（棄権）山形女短大

▼同準決勝　尚絅女学院3―2山形大、宮城学院3―0福島大

▼同決勝　宮城学院3―0尚絅女学院　▼三位決定戦　山形大3―1福島大

▼男子シングルス準決勝　三浦（東北学院）2―1柳川（東北学院）、山並（東北学院）2―1菊地（東北学院）

▼同決勝　山並2（12―15、15―7、17―16）1三浦

▼男子ダブルス準決勝　山並・安斉（東北学院）2―1菊地・岩淵（東北学院）、曳地・柳川（東北学院）2―1三浦・加藤

▼同決勝　山並・安斉2（15―5、14―18、15―5）1曳地・柳川

▼女子シングルス準決勝　藤村（東北工大）2―0小笠原（秋田大）、加藤（山形短大）2―1加藤（宮城学院）

▼同決勝　加藤2（4―11、11―3、11―3）1藤村

▼女子ダブルス準決勝　加藤・佐々木（宮城学院）2―0工藤・菊地（山形大）、加藤・早坂（山形短大）2―0伊藤・亀田（宮城学院）

▼同決勝　加藤・早坂2（18―13、9―15、15―6）1加藤・佐々木

◆**関東学生秋季リーグ**（10月16日―26日、目黒区立体育館）

▼男子一部　①法大5勝②中大4勝1敗③早大3勝2敗④日大1勝4敗⑤立大1勝4敗⑥関東学院1勝4敗（下位三校の順位はポイント数による）

▼男子二部　①青学②日体大③慶大④明大⑤千葉大⑥明学大（一、二部入れ替え戦の結果関東学院が一部残留）

▼女子一部　①日女体大5勝②青学大4勝1敗③日体大3勝2敗④東女体大2勝3敗⑤昭和女大1勝4敗⑥杉野女大5敗

▼女子二部　①国士館②千葉大③学蔵大④明学⑤慶大⑥共立（一、二部入れ替え戦の結果国士館が一部昇格）

◆**関西学生秋季リーグ**（10月20日―29日、大阪市立中央体育館）

▼男子一部　①近大5勝②関大4勝1敗③同大3勝2敗④神戸大2勝3敗⑤関西学院1勝4敗⑥甲南大5敗（一、二部入れ替え戦の結果大阪大が一部昇格）

▼女子一部　①東大阪短大5勝②武庫川女大4勝1敗③大阪樟蔭女大3勝2敗④大阪市立大2勝3敗⑤大阪教育大1勝4敗⑥関東学院5敗（一、二部入れ替え戦の結果神戸松蔭短大が一部昇格）

◆**全九州学生リーグ戦**（5月8日―11日）唐津市

▼男子一部　①福岡大5勝②熊本商大4勝1敗③熊本大3勝2敗④北九州大2勝3敗⑤九州産業大学1勝4敗⑥久留米大学5敗

▼男子二部　①長崎大学7勝1敗②鹿児島経済大学7勝1敗③鹿児島大学6勝2敗④九州歯科大学6勝2敗⑤西南学院大学3勝5敗⑥福岡教育大学3勝5敗⑦熊本工業大学2勝6敗⑧九州大学2勝6敗⑨宮崎大学8敗（入替戦の結果久留米大学二部へ長崎大学一部へ）

▼女子　①熊本女子大学5勝②福岡教育大学4勝1敗③熊本大学3勝2敗④鹿児島大学2勝3敗⑤活水女子短期大学1勝4敗⑥福岡女子大学5敗

東軍が男女とも快勝

通算14連勝飾る

全日本学生選手権の東西対抗は本大会に先立ち十一月九日、東京・岸記念体育会館内の特設コートで開催された。

男子は9、女子5試合制で行なわれたが、東軍が圧倒的に強く、男子は三浦（東北学院）滝野（法大）がシングルスで敗れただけ。女子もダブルスで石崎・小片組（日体大）が池田・篠山組（東大阪）に不覚をとったほかは、いずれも決勝。東西のレベル差をくっきり浮き彫りにした。

なお、通算十八回のこの対抗戦史上、西軍が勝ったのは第四回（昭和三十一年）の一度だけである。

第18回全日本学生東西対抗選手権（11月9日、東京・岸記念体育会館）

東軍 11―3 西軍

男子 7（単4―2、複3―0）2

女子 4（単3―0、複1―1）1

▼**男子**

我妻（法大）2（15―12、15―2）0山崎（福岡大）

三浦（東北学院大）0（2―15、1―15）2山口（近畿大）

梅野尾（法大）2（15―1、1―1）0浅井（愛知工大）

森、池田（法大）2（15―6、15―5）0久保田、丸井（神戸大）

今泉、岩下（中大）2（15―3、15―1）0小野、山口（近畿大）

梅野尾（法大）、関（法大）、杉山（日大）2（15―1、15―3）0米納、（同志社大）

滝野（法大）1（12―15、15―12、15―8）2河田（名商大）

笠井（法大）2（15―5、15―8）0森（近畿大）

本間（中大）2（15―3、15―5）0丸井（神戸大）

▼**女子**

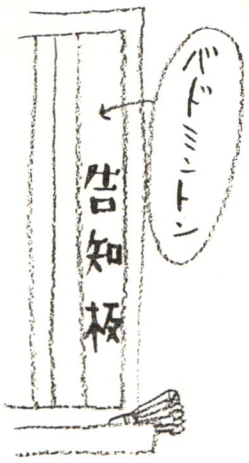
浦口（日女体大）2（4―11、12―12、10―11）1池田（東大阪短大）

高坂（青学大）2（11―12、11―9、9―0）0柿本（活水女短大）

石崎、小片（日体大）1（9―15、15―7、15―12）2池田、篠山（東大阪短大）

湯木、本間（日女体大）2（15―12、15―5、0―5）0岩田、西川（大阪樟蔭）

松本（青学大）2（11―7、12―11、3―10）1篠山（東大阪短大）



第一回 女子チャンピオン・トーナメントの開催決定!!

日本バドミントン協会では、東京12チャンネル・テレビの協力を得て、女子の選手権者（八人の予定）を一堂に集め、第一回女子チャンピオン・トーナメント大会（仮称）を開く予定にしています。

大会出場者は12チャンネルの招待競技会という形式となりますが、一応、全日本総合、全日本学生、高校総体、実業団、社会人、教職員大会――などの優勝者が出場します。

十一月十八日現在の出場予定選手は、高木紀子（東海女短大教）湯木博江（日女体大）竹中悦子（青陵女短大）柴山きよ子（東大阪高）裕恵美子（富山）太田節子（トヨタ自工）の六選手が内定しています。

ユーバー杯以来、女子の人気が高まっていますが、今年度の最後の競技会として注目を集めています。

なお、大会の予定はつぎのとおりです。

▽日時　昭和四十五年一月四日（日）午前十時――四時

▽場所　東京・岸記念体育会館内体育館（国電・山手線原宿駅下車）

テレビ中継は当日、午後二時から四時まで実況です。

ユ杯代表らに技能賞

本年度の協会表彰

今年度の被表彰者と団体が別記のように決まり、十月二十七日、秋季国体のバドミントン競技開始式（長崎県諫早市立体育館）の席上、日本協会の本田弘敏会長から表彰状と記念品が手渡された。

◇**功労賞**

- 金森藤平（富山県協会長）
- 中村　健（岡山県協会長）
- 毛利清志（岡山県理事長）

◇**技能賞**

- 毛利清志、高木紀子、天野博江、伊藤基記＝以上、教員大会三連勝以上
- 熊本県国体教員チーム＝国体三連勝
- トヨタ自動車工業チーム（愛知県）＝実業団大会三連勝以上
- ユーバー杯日本代表チーム＝今井先（監督）毛利清志（コーチ）山本洋彦（マネジャー）高木紀子、天野博江、高橋とも子、湯木博江、後藤和子、本間恵美子、浦口恵子、相沢マチ子、竹中悦子（以上選手）
- 国際学生代表チーム＝小飼栄一（監督）本島義男（マネジャー）鷲尾正一、米田実、笠井教行、滝野公一、相沢マチ子、竹中悦子、小片千恵子、堀川栄美子

◇**国体10回出場**

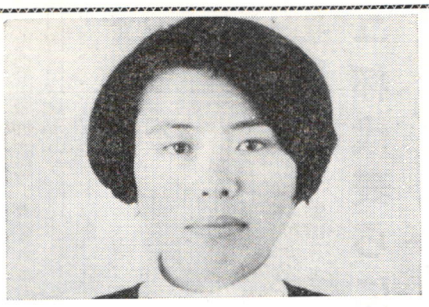
- 周東和之（千葉県一般男子）

◇**感謝状**

- 長崎県諫早市＝国体開催地
- 長崎県小浜町＝国体宿泊地
- 秦　浩（協会広報委員）＝ユ杯東京大会での努力



〈表紙〉湯木博江（日女体大三年）



「パワーの湯木さん」といわれるぐらい馬力のあるのが、この人の身上。

個人戦の世界選手権である全英で優勝したことはファンの記憶にも新しいところ。

勿論、高木や高橋のキャリアには及びもつかないが、この161センチのパワーにテクニックが、加えて勝負度胸がつけば〝鬼に金棒〟。

一見、陽気で楽天家に見えるため親しみやすいが「なかなかどうしてチャンと考えて言動している」というのが、周囲の湯木評。

「バドミントン界」の技術指導を担当している山陽学園・毛利清志先生の秘蔵ッ子で、日女体大に進んでからは同僚の浦口恵美子とともに今井先生にさらにシゴかれているよし。

これからの女子をリードしてゆく逸材であるが、バドミントンだけでなく、ビールもたしなむ？　いい意味での現代ッ子である。

〝花の十九歳〟もまっ黒に陽やけして健康そのもの。その湯木も、ユーバー杯の敗戦には、「にがい涙」も出たそうな。やはり「オンナの子」である。

編集後記

○…昼食抜き、晩メシ抜き、はっと気がついたら夜中。こんな日が続く。まったく忙しい。あれも入れたい、これものせたい。いつ、どこで、何かがあるということを聞くと、無理しても早い号の紙面につっこみたい。そこで、いったん予定した割りつけは、しばしばご破算。やり直しとなる。

編集者ねがわくは、情報提供をより早く、積極的に――それにしても、毎号同じことながら、予定されたものが、予定どおりの日に入稿してくれれば、編集者の苦労もいく分かはぶけ、たまにはカーちゃんや子どもの顔も見られるのに。

○…予告にあるとおり、次号は一年のしめくくり。同時に新しい時代への輝かしいスタートです。それにふさわしい話題、企画を一生けんめい考えているのですが。ともかく、第5号は大馬力で、年内にお手もとへ届くよう、がんばるつもりです。よろしく。

（G）

■　■　■　■

○…華やかな長崎国体が終わり、ホッと一息つく間もなくインカレ、全日本総合と競技会が目白押し。

スポーツの秋にふさわしくまことにご同慶の至りです。先月号は〝秋季特別号〟としました。これは発行日を調整するためで通算号数は変わりません。念のため申し添えます。

○…表紙のカラーが好評で、とりわけ二号の久美晶子さんは「バッグン！」（千葉・周東さん）とおほめにあづかりました。「プレーヤーがいい」という注文もあります。そこで、いかがでしょう。こうした清潔な美女なら、別にプレーヤーでなくてもいいでしょう？　みなさん。よろしければ編集子、ハッスルして〝美女狩り〟をやりますが……。乞！ご意見を。

○…第三号のインカレ予想は学連のメンメンが座談会をして提供しました。この適中率がまたバッグンです。非常に鋭く、かつ適切で冷徹、加えて愛情のこもった予想です。これがギャンブルなら、大変なことになったでしょう。信頼できる情報源でした。

○…さて、新春の一月四日に女子のチャンピオンだけを集めた大会を東京でやる計画が進行中です。年末行事は大変ですがご協力下さい。読者よりの投稿が相次ぎます。どしどしお寄せ下さい。では新年号をお楽しみに！

（M）

編集部から

読者のみなさんからの投稿を歓迎します。

原稿の長さに制限はありませんが、編集のつごう上、一部を書き直したり、割愛したり、何回かに分けて掲載したりすることがありますので、あらかじめご了承下さい。

この雑誌が読者すべての参加によってつくられていくよう、ご協力と、ご支援をお願いします。おもなテーマは

①質問箱＝主として技術、トレーニング関係の質問。または、これに対する批判、反論など

②お便り＝みなさんの町や村学校、チーム、協会、連盟などのニュース、エピソード　たとえば新人、ヒーロー、変わりダネ、ベテラン選手、指導者の話、選手育成、普及の努力など

③各種大会の記録

④人事、消息、組織の決定事項、お知らせもの

⑤この雑誌に対する意見、希望、批判など

⑥その他、なんでも。おりにふれての随想、むかしばなし、など。

もし、写真もつけて下さればなお、けっこうです。

【バドミントン界】　第四号
昭和44年11月25日印刷
昭和44年12月1日発行
編集兼発行人　川　端　昇　市
発行所　東京都渋谷区神南町25　岸記念体育会館内　日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一　四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都江東区永代一の五の二　有限会社　和田印刷所
定価　一部　百円

次号予告

いよいよ今年の掉尾を飾る全日本総合選手権が始まります。十二月号、つまり通算第五号は、〝全日本総合〟の速報号です。

また、今度は「トマス杯」です。全日本代表をひきいる小宮監督、福井コーチの「決戦に備えて」ほか、盛り沢山な内容です。

理事長対談には、日本女子体操界のリーダーであり、世界選手権、五輪の舞台での唯一人の総合入賞者、池田敬子さん（日体大助教授）を予定しています。

【主な内容】

▽特集1　全日本総合選手権
①記録速報
②ヒーロー
③戦評・総評

▽特集2　技術講座「百万人のバドミントン上達法」
講師・伊藤基記、毛利清志、遠井稔男先生執筆

▽特集3　スポーツ・サロン

▽特集4　写真グラフ（全日本学生選手権から）

▽海外ニュース
▽北から南から
▽私の場合
▽全日本学生記録

……ご期待下さい……

Sanwa

本年度検定合格

サンワ印シャトルコック

水鳥球・陸鳥球

株式会社 三和

東京都大田区雪ヶ谷町307番地
電話（729）8549番

HATACHI

SHUTTLECOCKS

日本バドミントン協会公認
日本一の生産量を誇る

羽立工業株式会社

■本社
静岡県浜名郡湖西町新所3 郵便番号・431-04
TEL 湖西〈05359〉6－1501（代表）

■東京営業所
東京都台東区蔵前3-10-7 郵便番号・111
TEL 東京〈03〉861－2777（代表）

タイガー サイズ21.5～27.0 ¥1,000

バドミントン



Onitsuka Tiger

オニツカ株式会社
神戸市須磨区寺田町3－1
支店／神戸・大阪・東京

華麗な
プレーに
鋭い動きを加えた
タイガーバドミントン

YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ―― アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ―― 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

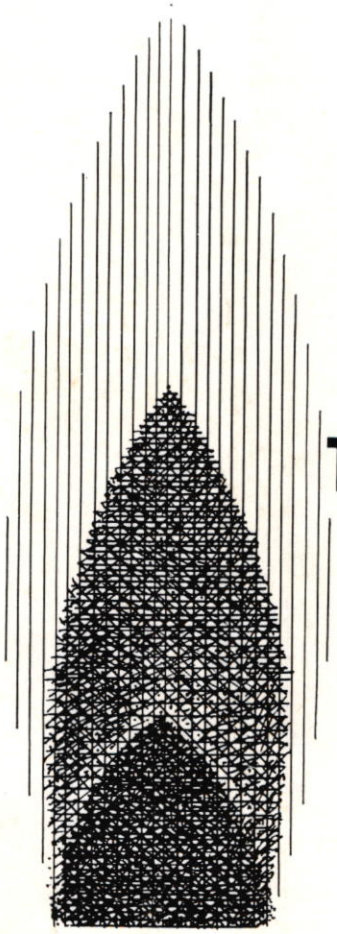
弾む ―― 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

YONEYAMA

株式会社 ヨネヤマラケット

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

月刊「バドミントン界」　第四号　昭和四十四年十二月一日発行　発行所　東京都渋谷区神南町二五　岸記念体育会館内　日本バドミントン協会　定価百円



TOKYO gas

東京瓦斯株式会社

東京都中央区八重洲１の３
電話(273)0111(大代表)